塔の上から

〈登場人物〉

古田（フラワーパーク自治会副会長）
宮本（同じく広報部長）
岩村（同じく防火防犯部長）
稲葉（同じく環境衛生部長）
土橋（同じく文化厚生部長）
石井（同じく会計）
飯田（自治会集会所の事務員）
斉藤のおばあさん（住人）
木村（住人）
山本（引っ越してきた男）
渡邉（訪問販売会社の総務課長）
校長（ティーチャーズクラブ）
理科（同）
算数（同）
国語（同）
保健室（同）

1

カラスの鳴き声。しばらく続く。
鳴き声、止む。
舞台中央に宮本（四十代の男）。

宮本（客席に向かって）こんにちは、いいお天気ですね。でもちょっと風が強いですね。挨拶は、地域社会を結ぶ大切なコミュニケーション。お互いを知るはじめの一歩です……僕ですか？　僕は……長野県人です。長野県で生まれ、十八までいました。予備校からずっと東京で、もう二十五年になります。長野県で過ごしたより、東京の方が

長いけれど、東京人ではありません。県民性の本によると、長野県人は理屈っぽいっていわれます。炬燵で野沢菜食べながら議論ばかりしているイメージ。でも長野県も北と南では気質も違います。対抗心もある。長野というのも、南の人たちにいわせれば北に押しつけられた名前だと。だから長野県でなく信州と呼びます……（小声で）長野県人の見分け方を教えましょう。長野県人は、『信濃の国』が歌えます。県歌です。県の歌。長野県人なら必ず歌える。みなさん、もし長野県人を名乗る人がいたら尋ねてみてください。「じゃああなたは、『信濃の国』を歌えるんだろうね」って。歌えなかったら、その人は、そいつは、そいつは偽者です。偽長野県人です！　（急に興奮したように大声で）騙りだ、詐欺師だ、インチキ野郎だ！　（我に返って）すみません……僕が住んでいる東京郊外のニュータウン、フラワーパークといいます。そこには北は北海道から南は沖縄まで、三十四都道府県の出身者がいます。そのうち長野県人は僕を含めて十三人、もちろん、全員歌えるはずですよ。

『信濃の国』の合唱。フルボリューム。

2

ニュータウン『フラワーパーク』の自治会集会所。長机にベンチ。折たたみ椅子。上手に受付カウンター。その傍に事務机。机上にはファックス付電話。バックの壁に畳二畳分もあるニュータウンの地図が貼ってある。

自治会副会長の古田（七十代男）と広報部長の宮本、会計の石井（五十代女）。

石井　会長、入院ですって？

古田　十二指腸潰瘍。

宮本　十二指腸っていうと。

石井　ストレス、よね。

宮本　じゃあ、古田さんが会長代理だ。

古田　副会長を二人にしとけば、こういうとき楽なのに。

宮本　トラ担もやるんですね。

古田　トラタン？

宮本　諸問題調整担当。

古田　……。

宮本　トラブル担当、略してトラタン。

古田　いやだな、仲裁なんて苦手だよ。会長だって、それで……。

事務員の飯田（四十代女）入ってくる。

宮本　飯田さん、これお願いします（原稿を渡す）。回覧板の原稿。

飯田　急ぎ？

宮本　早いにこしたことは……。

飯田　（不機嫌そうに）今、訃報、回してきたばかりなんです。あらかじめわかっている原稿は早めに出してもらわないと。

石井　誰が亡くなったの？

飯田　辻さんの。

石井　おばあちゃん？

飯田　それがお嫁さんの方。

石井　まだ若いんじゃない。

飯田　四十五歳。肝臓癌。

石井　若い人の癌は早いのよね。

飯田　子供会の役員で一緒だったんだけど、娘さん、まだ五年生。その下に男の子もいるし。

古田　年寄りと子供を遺されて、旦那もたいへんだな……何をやってる人だい？

飯田　保険会社……建設会社だったかしら。朝は始発のバスで、帰りは最終ってやつ。休みにもあまり見かけなかったわ。

古田　この頃、やけに若い人が亡くならないか？　四十代とか五十代とか。その割に七

十や八十の老人はぼやぼやしながらもしぶとく生きている。そのうちこのニュータウンは、シルバータウンになるぞ。

宮本　50％を切ったと思いますよ。

石井　何が？

宮本　この町で四十代以下が占める割合です。それに対して六十五歳以上のいわゆる高齢者は32％、市全体の29％を3ポイントも上回っているんです。実に住民の三分の一が高齢者。それから、介護認定者数ですが……。

電話の呼び出し音。飯田、出る。

飯田　はい、自治会集会所です……ええ、いらしてますよ……かわらなくてもいいんですか……はい、伝えます（切る）……土橋さん、三十分ほど遅れるそうです。

石井　三十分ってことは、一時間ね。

古田　忙しそうだな、あいかわらず。

石井　私、しょっちゅうバス停で会うもの。カルチャーセンターとか、いろんな催しとか。旅行にもよく行かれるみたいだし。

古田　土橋さんが幹部会、今日にしてくれっていうから……。

飯田　（原稿を見せて）宮本さん、これ。

宮本　誤字、ありました？

飯田　13日は金曜日でしょ。木曜になってる。13日が正しいんですか、木曜が正しいの？

宮本　13日です。13日の金曜日。僕のせいじゃないですよ。岩村さんの原稿だもの。文章のおかしなのは直したけど、日付まではチェックしなかったな。

石井　何の回覧？

宮本　例の防災の。

古田　ああ、防災チームの。

宮本　岩村さん、気合、入ってるんです。僕、ワープロ、頼まれて。

石井　手書きでもいいんですよ。

宮本　手書きでは、ちょっと。

飯田　じゃあ、13日の金曜日なんですね。

宮本　ホワイト、ある？

古田　13日なんだからわかるよ。

飯田　だめです。必ずクレームがくるんです。「13日なのか、木曜なのかどっちだ」って、鬼の首とったみたいに電話かけてくるのがいるんです。

石井　うるさいのがいるのね。

宮本　テレビ局にすぐ抗議の電話をする手あいですね。大勢？

飯田　常連だけで5、6人。

石井　そりゃ、たいへん。

飯田　間違いを指摘するだけならいいんです。その後が長い。自治会批判をひとくさり。つきあわされる身にもなってください。やっと解放されたかと思うと、次の電話。「いつまで長話をしてるんだ。おまえは自治会の電話を私用に使ってるんだろう」って。

古田　ひどいな、そりゃ。

飯田　私、事務やってるだけなんですから。時給たったの五百円なんですから。

宮本　安いな、そりゃ。

飯田　上げてくれって言うんじゃないんです。普通のパートは無理だから助かってるんです。

石井　誰なの、一番うるさいのは？

飯田　……。

古田　あの人か（笑）。

宮本　あの人って？

古田　テニスコートの脇の、大きなケヤキのある家の御仁。

飯田　自治会のことだけじゃないんです。やれ、竿竹屋の売り声がうるさい、金魚屋がうるさい、焼き芋屋がうるさい、豆腐屋がうるさい、自転車の修理屋がうるさい、網戸の修理屋がうるさい、灯油販売がうるさい、選挙カーがうるさい、市の広報車がうるさい、ゴミの回収車がうるさい、救急車がうるさい、消防車がうるさい。

宮本　そのたびに？

飯田　子供がうるさい、赤ん坊がうるさい、犬がうるさい、猫がうるさい、カラスがうるさい、飛行機がうるさい、風鈴がうるさい、ふとんをたたくのがうるさーい！

石井　飯田さん、もうわかったから。

飯田　うるさいのはあんただっていうのよ！

宮本　それでか。あのテニスコート、やってる人、見たことないもんな。

飯田　テニス？　あの人が生きている限りできませんよ。うるさかったら、竿竹屋や豆腐屋に直接言えばいいじゃないですか。市や消防署や自衛隊に言えばいい。

宮本　ほとんど趣味なんでしょうね。いや、ほとんど病気かな。

飯田　ほとんど犯罪です。

宮本　これ、打ち直してきます。土橋さん、遅れるだろうし。（退場）

古田　宮本さん、几帳面だな。

飯田　ちょっと変わってますよ。

石井　今、仕事してないんでしょ。

飯田　リストラですって。私なら、のんきに自治会の役員なんてさせてないけど。

古田　失業保険があるんだろ。

飯田　そんなにいつまでももらえませんよ。中高年の再就職、厳しいっていうのに。

古田　でも彼のような若い人ががんばってくれると助かるよ。ここの自治会、定年退職した年寄りと主婦ばかりだろ。女性がいないわけじゃないが、やっぱり四十代、五十代の男性が中心にならなきゃ。この間の住民アンケートだって、実によくできてた。分析結果をちゃんとグラフにしてさ、たいしたもんだよ、彼は。

飯田　なるべく余計なことはしたくないんです、みんな。

古田　かくいう俺も、勤めをやめるまで自治会なんて見向きもしなかったが。

石井　ずっと奥さんまかせだったんでしょ。

古田　俺の田舎ではね。町会長とかこういった地域の役は名誉職でね。なろうと思って

なれるものじゃない。旧家の何代目なんてのしかなれない。まして新参者なんて相手にもされない……それがここでは引っ越して一年にもならない人が自治会の会長様だ（笑）。

石井　やりたい人なんていませんよ。役員は輪番制だからしかたないし、幹部だって毎回阿弥陀くじ。

古田　俺の言いたいのはさ、町会とか自治会の幹部には重しが必要だってこと。威厳というか、あの人が言うんだからしかたないって、みんなを納得させてしまうような。地域ボスは民主的じゃないっていう人もいるが、そういう連中が仕切ってた方がまとまりもあるし、もめごとも少ないんだ。

男（三十代）、入ってくる。受付に。

山本　あの、すみません。

飯田　はい、何か？

山本　来週越してくる山本といいますが。

飯田　昨日お電話いただいた山本さん？　えー、25ブロックでしたね。

山本　自治会費を納めに。

飯田　はい、どうも。

山本　一年分、四千八百円でいいんですね。

飯田　次からは口座落しでお願いします。

山本　口座……ですか？

飯田　その方がお手間がないし。

山本　いいです。

飯田　は？

山本　持ってきます、毎回。

飯田　そうですか……それとフラワーベルトのお金、一緒でいいですか？　こちらは一年分二千四百円。

山本　フラワーベルト？

飯田　ええ、フラワーベルト基金。ここでは年に四回、お花の植え替えをするんですが、その費用です。ご存知ない？

山本　ええ。

飯田　不動産屋さんに聞きませんでした？

山本　不動産屋からじゃないんで。

飯田　前の方、何にもおっしゃらなかった？

古田　この町はね、同じ花を植えるんですよ。

山本　そんなことまで決めてるんですか？

古田　どの家にもしきりに三十センチ幅の細長いスペースがあるでしょ。フラワーベルトといってね。あのスペースだけ、一緒なのは。それ以外はもちろん好きなものを植えていい。あの部分だけ。この町のシンボルというか、共通の……アイ……デ。

山本　アイデンテティ。

古田　そう、それ。ここ、フラワーパークっていうでしょ。それにふさわしい景観づくりをしようということで。

山本　なるほど。

石井　今年はパンジーとサルビアとマリーゴールドと……。

山本　つまり、どの家の庭先にも同じ花が咲くわけだ。

石井　一斉に。

古田　壮観ですよ。

石井　よその方はみんな感心されるんですよ、きれいな町並みだって。

古田　うらやましがられるんです。こういうのってあまりないから。

石井　そのせいかしら、坪単価もまわりに比べて一割くらい高いんですよ。

山本　そのフラワー……なんとかは。

石井　フラワーベルト。

山本　ここのルールなんですね。

古田　ルールというか。まあ、みんなで、そうしようと。

山本　あなたも賛成された。

古田　私は二十三年前に引っ越してきたんです。そのときにはもう、そうなっていた。三十年前、開発業者が提案して、当時の住人とも相談の上決めたようです。

山本　ではあなたは、そのときいなかった。

古田　でも私はね、そういうのもいいなあと

思いましたよ。納得して買ったんです。

山本　三十年前に、反対した人はいなかったんですか。

古田　当時のことは知らんが、ここの人たちはみんな、賛同しているんです。

山本　みんな？　みんなですか？

石井　みんなです。

山本　全員、もれなく？

石井　全員……（飯田に）全員でしょ？

飯田　全員、というわけでは……。

古田　全員じゃないのかい？

飯田　十世帯ほど参加してないんです。

古田　知らないぞ、私は。

飯田　（地図を指して）ここと、ここ。それからここと、その隣と、それから……。

山本　どうも全員ではないらしいですね。

古田　ここには七百世帯もあるんだ。そのうちの十世帯だ。１％ちょっとだ。

山本　でも全員じゃない。私ね、お金が惜しくて言ってるんじゃない。ただ、みんなで決めたことだから従えってのが嫌いなんです。世の中は確かに、みんなで決めたように動いています。１％が何といおうと、９９％の意見通りに動く。従わなければ損をするし、痛い目にあうことだってある。でも、同じ花を植えなくても損することはなさそうだし……もしかして痛い目にあうんですか？

古田　馬鹿な！

石井　お花、嫌いなんですか？

山本　嫌いじゃない。でも私は自分の好きな花を植えたい。

古田　庭全部に植えろとはいってない。ほんの一部じゃないか。

飯田（古田に）　いいじゃないですか、副会長。お嫌だというんだから。

山本　自治会の役員さんですか。この自治会費ってのもひっかかったんですよ。こちらから入れてくれと頼んだわけじゃなし。大体、自治会なんて何をしてくれるんですか。

回覧板ですか？　いまどき回覧板なんて、訃報だとか、空巣に注意しましょうとか、火の用心をしろとか、募金をしろとか、そんなところでしょ。近所のじいさんばあさんが死んだと知らされても、お悔やみにいくわけでもなし。空巣も火事も自己責任だ。赤い羽根だ、歳末助け合いなんてものは、本来押し付けられるものじゃないでしょ。

石井　自治会は回覧板だけじゃありません。夏祭りとか体育祭とか、いろんな行事もありますし……。

古田　自治会には防火防犯部というのがあって、冬には夜回りもする。そのおかげで、このニュータウンができて三十年間に火事といえばボヤが一度あっただけだ。

山本　たまたまでしょ。自治会のおかげというのは強引です。それにボヤが一度あったんでしょ。効果があったというのは。

古田　役員はお年寄りが多いんだ。その方たちが寒い中夜回りを続けてくれたんだ。あんた、それが無駄だと言うのか。

山本　無駄だなんて言ってませんよ。ただ、効果があったかどうかは。

古田　同じことだ。（会費を突っ返し）お持ち帰りください。こちらだって、頼んで入ってもらおうとは思わない。

石井　副会長。

古田　いいじゃないか、石井さん。入りたくないっていうんだから。

石井　フラワーベルト基金とは扱いが……。

古田　いいんだ。

石井　そんなこと勝手に……。

山本　つまり、村八分ということですか？

古田　村八分？　あんた、村八分の意味がわかっているのか？　村八分ってのは、葬式と火事以外はつきあわないってことだ。あんた、さっき何て言った。近所のじいさんばあさんが死のうが生きようが関係ないって言わなかったか。それから火事は自己責任だってな。なら村八分どころじゃない。

一切つきあいなしってことだ。都会のマンションならそれも結構。でもここは都会と田舎の中間の、中途半端なニュータウンだ。中途半端なところには中途半端なルールがあって、中途半端な理屈があるんだよ。それが気に入らないっていうんなら……。

山本　出て行け、ですか？

古田（口ごもる）私に、そんな権利は……。

電話が鳴る。飯田、出る。

飯田　はい、自治会集会所です。ああ、斉藤さんの。はい、はい……におう？　におうんですか？　煙とかは？　出てない……。

スポット。

車椅子に乗った斉藤のばあさん（八十代後半）が浮かぶ。受話器をもっている。身ぶり手ぶり、声は聞こえない。

飯田　いえ、こちらにそういう連絡はまだ……警察へですか？　ええ、はい……はい、確かめます。西？　西の方からにおうんですか？　アカシア公園の方から？　はい、はい、アカシア公園ですね。わかりました……はい、はい、ちゃんと調べますので。わざわざ、ありがとうございました。（切る）

スポット、消える。

石井　におうって、ガス漏れ？

飯田　ううん、斉藤さんのおばあちゃんから。

石井　何でもないの？

飯田　だいぶね、あれなものだから。

古田　ボケてきたのか。

飯田　そんなこといってませんよ。

山本　じゃ私、これで。

古田　お金、忘れてるよ。

山本　副会長さん、まだお名前をうかがって

いませんが。

古田　古田だ。自治会には入らないんだろ。

山本　回覧板を回してほしいんで。

古田　意味がないんじゃないの？

山本　ええ、でも誰かさんの訃報を知らされないのは癪ですから。

古田　なんだと！

山本、逃げるように退場。

古田　あの野郎！

石井　そんなに怒らなくても。

古田　石井さん、聞いてなかったの？　誰かの訃報ってのは、俺の訃報ってことだ！

石井　まあ。

飯田　ああいうタイプ、増えてますよ、最近。

石井　増えてるの？

飯田　ええ。

古田　フラワーベルトに参加していないやつがいたんだなあ。

飯田　ここ一年くらいですよ、そういう人が出てきたの。

古田　会長も知らなかったのか？

飯田　一応報告してますけど。

古田　めんどうはいやだろうからな……それで、どこの連中なんだい。

飯田　（ノートを取り出し）　19ブロックの山田さん、山形さん、山崎さん、山内さん、34ブロックの山岸さん、山野さん、山岡さん、山口さん、25ブロックの山瀬さん、山城さん、それからいまの山本さん。

古田　かたまってるんだな。

石井　（ノートをのぞき）あら。

古田　どうした？

石井　この人たち、みんな名前に山がつくの。

古田　山がつく名前なんて、それこそ山ほどあるよ。なにしろこの国は山ばかりだ。

環境衛生部長の稲葉（五十代女）、入ってくる。

稲葉　あれ、副会長と会計さんだけ？

古田　広報部長がいたんだが、13日が金曜日だったんで。

稲葉　何ですか、それ？

石井　回覧板の原稿を直しに。

古田　飯田さん、斉藤のばあさんからの電話、稲葉さんに報告しなくていいの？

稲葉　斉藤のおばあちゃん？　電話があったの？

飯田　ええ。

稲葉　におうって言ったんでしょ。それで、どっちからだって？

飯田　公園の方から……何でもないんでしょ。

稲葉　万が一があるから。

石井　万が一って？

稲葉　環境衛生部の申し送り帳にあるのよ。斉藤さんのにおいの件って項目が。一応チェックしておいた方がいいみたい。

飯田　私、そんなの知らないわよ。

稲葉　ほら、副会長、覚えているでしょ。七年前の、副島さんの、あれ。

古田　ああ、あまり詳しくないが。

飯田　副島さん？　25ブロックの？

古田　もうずっと空き家になってる。

石井　一人暮らしされてたんでしょ。

稲葉　亡くなってたのに、一か月もそのままだったの。

古田　子供はいるんだが、あまり来なかったみたいでな。

飯田　それが斉藤さんとどういう？

稲葉　だから、冬だったせいもあって、においがもれてこなかったの。

宮本、戻ってくる。防火防犯部長の岩村（六十代男）も一緒に。

岩村　ああ、どうも……二時だよね？

宮本　（飯田に）今度は大丈夫だから。

岩村　ワープロさ、孫のがあるんだけど、何

度教わっても覚えられなくて。

古田　25ブロックは、岩村さんが近くだ。

岩村　25ブロックがどうかしたのか？

稲葉　副島さんのおじいちゃんの話。

岩村　副島さん？　ああ、副島さんなあ、頑固なところはあったが、悪い人じゃなかったんだ。でも最期がな、ちょっと。

宮本　それ知ってます。孤独死で三か月も気づかれなかったって。

稲葉　一か月よ。

岩村　三週間。子供が二人いて、姉ちゃんは熊本に嫁にいってるんだ。弟があそこに住んでたんだが、嫁がじいさんと折り合いが悪くてな。奥さんが亡くなったら、息子たちは親父を残して出てっちゃったんだ。副島さん、確かに扱いづらいだろうけど、嫁ってのもきつい女でね。息子はおとなしいばかりで……戻ってくるの？

稲葉　違いますよ。斉藤さんがね、また、におうって騒いでるらしいから。

岩村　斉藤のばあさんの、あれか？　ありゃ、馬鹿にしちゃあいけないぞ。一種の超能力だから。

宮本　超能力？

岩村　斉藤のばあさんってのはな、もう九十いくつになるんだが、異常に鼻がきくんだよ。目はろくに見えんし、耳も遠くなったが、においだけは衰えんどころか、老いてますます研ぎ澄まされているらしい。足も弱っているからほとんど部屋にいるんだが、窓からのにおいにえらく敏感なんだ。

宮本　犬みたいですね。犬は人間の嗅覚の十万倍なんですよ……百万倍だったかな。

岩村　犬並みかは知らんが、とにかく斉藤のばあさんは、副島さんのときも早くからにおうにおうって。

宮本（地図を見ながら）斉藤さんの家はここで、副島さんはここか。ということは……（指で測って）ええっ、ずいぶん離れてますよ。直線で二百メートルはある。

岩村　だから超能力なんだよ。隣がにおいに気づいたのはかなりたってからだもの。その件だけじゃないぜ。その二、三年前にも同じような話があったらしい。

石井　じゃあ、また誰か？

古田　おいおい。

岩村　七年ぶりに。

飯田　ええっ、いやですよ、そんなの。

岩村　どっちからだって？

飯田　西。アカシア公園の方からですって。

宮本　（地図を見ながら）斉藤さんの家から西っていうと、こっちの方角か。

飯田　変なにおいっていうだけで、その……死んだ人のにおいとは限らないでしょ。

岩村　だって、変なにおいだろ。

飯田　クサヤかもしれないし、にんにくかもしれないし。

稲葉　クサヤやにんにくはわかるわよ。

宮本　死臭なんだから、腐ったにおいでしょ。腐敗臭ってやつ。

石井　（岩村に）そうなの？

岩村　さあ、俺のところまでにおってきたわけじゃないし。

石井　誰か立ち会ったんでしょ？　警察と一緒に。

岩村　お隣さんと環境衛生部長が立ち会った。

稲葉　ちょっと待って。そういうの、環境衛生部なんですか？

岩村　変なにおいなんだから、やっぱ環境衛生部じゃないの。

稲葉　それはないですよ、防犯部ですよ。

岩村　副島さんは殺されたわけじゃないよ。病死なんだから。

稲葉　それはあとからわかったんでしょ。いやよ、私、そういうとき立ち会えなんていわれても。

古田　まあ、そんな心配しなくても。

稲葉　そういうことはちゃんと決めておかないと、そのときになって絶対もめるんです。

飯田　私は関係ないんでしょうね。

石井　文化厚生部は？

稲葉　そうよ、厚生部よ。老人健診のおすすめとか、ボケ防止の頭の体操とか、お年寄り関係は主にあそこがやってるんだし。

宮本　独居老人の緊急通報システムの設置は、防犯部がすすめて……。

岩村（宮本に）おい、そういうことというなら広報だって関係あるぞ。警察や報道の連中もくるんだから。

古田　その件は会長さんと……いないか。

宮本　一か月近くもまわりは気づかなかったんですか。回覧板も止まっていただろうし、変だと思わなかったのかな？

岩村　おかしいと思っても、「どうかしましたか」と声はかけにくいものさ。普段からつきあいがあれば別だが。

稲葉　一人暮らしの高齢者は地域で気遣ってやらなきゃいけないんだけどね。

古田　そう、自治会のやることはいっぱいあるんだよ。高齢化社会なんだし。なのに、あれこれ文句をつけるやつらがいる。

稲葉（石井に）何かあったの？

石井　来週引っ越してくる人で、自治会なんか入りたくないって言った人がいたの。

岩村　そいつ、入らないの？

飯田　入りましたけど、フラワーベルトは。

岩村　地域社会ってものがわかってねえな。

古田　夜回りしてるから、この町には大きな火事がなかったといったら、そいつ、何て言ったと思う。そんなのはたまたまだと。

岩村　何だと！　どこの馬鹿だ、そいつは！

稲葉　いるのよ、そういう人が。古くからの人にだって自治会不用論を唱える人がいるもの。

岩村　そういうもんかね。

宮本　さっきの副島さんの話ですが、そのとき、斉藤さんのおばあさんは変なにおいがするって言ったんでしょ？

岩村　そうだよ。こっちから。東南の方から変なにおいがするって騒いでたらしい。

宮本　でも、それだけじゃ、副島さんのところからのにおいかわかりませんよね。

岩村　まあそうだな。

宮本　もし、斉藤さんのおばあさんのように鼻のきく人がほかにもいたとします。それが仮に、副会長の奥さんだとします。

古田　どうしてうちの家内なんだ？

宮本　仮にです。副会長の奥さんは遊水地の方から変なにおいがするって言うんです。

古田　言わないよ、そんなこと。

宮本（無視して）　すると、遊水地は副会長の家からは南西の方角でしょ。だからほら、斉藤さんの家から東南、副会長の家からは南西。交差する場所に副島さんの家がある。

岩村　つまり、斉藤のばあさんみたいなのが他にもいれば、においの出所が特定できるってわけか。

宮本　そうです。そうなれば副島さんのときみたいに発見に時間がかかることはない。

岩村　なるほどなあ。

宮本　におい方向感知器、人間アラームですね。誰かいませんかね？　これだけの広さをカバーするとなると、少なくも三、四人は必要だな。

古田　うちの家内は違うぞ。

稲葉　いないわよ、そんな人。

宮本　調査してみる価値はあります。大ケヤキの家の人みたいに音に敏感な人もいるわけだし。

飯田　あれは敏感じゃなくて、過敏なんです。いやですよ、私。そんな年寄りばかり増えるのは。結局相手をするのは私なんだから。

岩村　それ、いいアイデアかもなあ。

飯田（あきれて）岩村さんまで。

岩村　市の『高齢者保健福祉計画』の柱に、高齢者の能力を地域の活動に積極的に活かそうってのがあったぞ

電話、飯田が出る。

飯田　はい、自治会集会所です。ええ、みなさん、きてますよ……はい、わかりました。

宮本　土橋さん？

飯田　バスに乗り遅れたんですって。

石井　もう始めましょう。

全員、席に着く。

古田　ええ、それでは、フラワーパーク自治会幹部会を始めます。文化厚生部長はあとから来られるので、まず最初に……。

3

岩村（客席に向かって）こんちは、いつもお元気そうで。とにかく健康が一番だね。挨拶は、地域社会を結ぶ大切なコミュ、コミュニケーション。お互いを知るはじめの一歩なんだってさ……俺？　俺は……うーん、そう菊派だ。菊派。菊五郎の菊。花の菊。家を建てたんで、じゃあ何か新しいことをやろうと思って。それで菊づくりをね。ほら、ここが、フラワーパークなんていうから、花もいいんじゃないかって。俺らしくないっていわれたけど（笑）……始めてみると、これが奥が深い。伝統があるんだぜ。同好の士も多い。フラワーパークにもね。よく一緒に飲みに行くんだ。飲むと、決まってあいつらの悪口になる。あいつらってのは薔薇派のこと。薔薇派も結構いるんだ。庭中、薔薇、薔薇、薔薇。馬鹿みたいにさ。蘭をやってるのもいるが、俺たちの敵は薔薇派なんだ。ここでは、フラワーベルトといって季節ごとに同じ花を植えてるんだが、やつら、こともあろうにそれを全部薔薇にしようなんて提案しやがったんだ。冗談じゃない。反対の急先鋒が俺たちだったんで菊薔薇戦争なんていわれたけど……俺たちはね、他人に菊を植えろ

なんて強いたりしない。でもねえ、菊はいいよ。日本人の心だ。品がある。薔薇はさ、歳時記だと初夏の季語なんだけど、あんなもの春でも夏でも秋でも年がら年中咲いてるだろ。節操がないんだよ。扱いもさ、菊とは比べものにならない。菊は種類だって多いんだよ。百菊なんて言葉もある。菊日和とか菊の雨、残菊、晩菊……風情あるだろ。〝わがいのち菊にむかひてしずかなる。水原秋桜子〟。いいねえ。

4

自治会集会所。防災チームの準備会合の最中。

宮本　問題は、昼間の人口です。七百十一世帯、二千百三十六人のうち千三百六十四人ですが、これじゃ少ない。

古田　それだけいれば十分じゃないの？

宮本　中身が問題なんです。ほとんど高齢者と主婦と子供。これじゃ、戦力には。

石井　自治会だって、高齢者と主婦が支えているんです。

宮本　倒壊した家からの救出、火事が出た場合の初期消火、怪我人の搬送、どれも男手がいるんです。

石井　私、主人より力ありますよ。

宮本　寝たきりのお年寄りが二十五人います。この人たちを避難場所まで運ぶのに何人いると思いますか？　一人につき最低四人。つまり百人が必要ということです。

古田　それだけ集まるかな。

飯田　わたしたちがやらなくたって、そのために消防とか警察が。

宮本　普段ならね。地震の場合にはあっちでもこっちでも援けが必要になる。

石井　わたしたちにできることなんて、たかがしれてます。それに危険だし。

宮本　たかがしれてますが、自分たちの町は自分たちで守るしかないんです。

岩村、ビニール袋に入れたジャンパー二着を抱えて入ってくる。

岩村　どうもどうも、遅くなって。（宮本に）ほら、これ、見本。

古田　何？

宮本　ジャンパーです、防災チームの。

岩村　俺はね、こういうのはやっぱり法被じゃないかって。村の消防団みたいにさ。でも宮本さんが、こういうのでないと女性や若い人が着てくれないっていうから。

宮本　（広げてみる）いいじゃないですか、いいですよ、すごくいい。

石井　ちょっと派手じゃない？

宮本　目立たなきゃ意味ないんです。みんなに指示したり、避難誘導するリーダーが着るんですから。これ、蛍光塗料も塗ってあるんですよ。

飯田　何、この伊藤歯科って？

石井　松本酒店に美容室カトレア。

宮本　スポンサーです。

岩村　たいへんだったんだぜ、集めるの。

石井　サッカーのユニフォームみたい。

古田　酒屋や美容院はここの商店街だからまだしも、ニコニコローンはどうかな？

岩村　迷ったんだけどさ、ここから金を借りてつくったわけでもなし。

飯田　文句が出るわよ。

石井　うん、絶対。ティーチャーズクラブあたりから。

宮本　ティーチャー？　先生？　何、それ？

飯田　バス停前の後藤さんが中心になってつくった小学校や中学の先生のグループ。正式には退職教員親睦会。学校の先生だった人、やたらいるけど、うるさ型ばっかり。

宮本　確か三十二人いますね。現役もあわせると四十人。

飯田　学校の先生って、普通のサラリーマンみたいにお客様に頭を下げたり、上司にいびられたりとかないじゃない。新人の苦労もなく、いきなり一人前の先生のわけじゃない。それでずーっとやれるもんだから、世の中ってものを勘違いしてるのよ。

石井　でも最近の親はうるさいわよ。

飯田　内申書をちらつかせれば黙ってしまうわよ。立場的には生徒より親よりも強いし、校長や教頭なんてたいしてプレシャーにならないから、こわいものなしなのよ。

岩村（石井に）飯田さん、教師に相当恨みがあるみたいだな。

石井（小声で）お子さんのことがあるから。

飯田　ここには大企業の重役だった人も、大病院のお医者さんも弁護士さんも芸術家やスポーツ選手もいるのよ。でも何をやっているか、何をやってたかなんて関係なく、ここでは同じ町の住人なの。ただのおじさん、おばさんなのよ。

古田　それでいいんだ。

飯田　でも、先生って人種は、やめた後でも先生じゃないとおさまらないの。

宮本　それにしても飯田さん、何でも知ってるんですね。この町の生き字引だ。

飯田　やめてよ！　生き字引なんて。木村のババアみたい。

宮本　誰ですか？　木村のババアって？

石井　知らないの？　超有名人よ。

岩村　フラワーパークができたときからの古株だ。あのババア、よその家のことを嗅ぎまわるのが趣味なんだ。

石井　嗅ぎまわるだなんて。

岩村　興信所だよ、ありゃ。よその家の預金高から夫婦仲まで何もかもご存知だ。

石井　岩村さん、大げさ。

岩村　あのババアにかかったら、銀行や郵便局の連中もぺらぺらしゃべっちまう。やつら、交換にババアの情報がほしいんだがね。電気店の親父から病院の看護婦からパー

マ屋の姉ちゃんから、どこからでもほじくりだしちまうんだから。

宮本　フラワーパークの影の広報部ですね。

岩村　諜報部だ。ＫＢＧっていうんだ。

宮本　ＫＢＧ？　ＫＧＢじゃ？

岩村　木村のババア、地獄耳の略だ。詮索好きというだけじゃない。変な噂や悪口を広めたり、やっこさんにからまれたら厄介なことになるぜ。

古田　もういいよ、あの人の話は。

岩村　とにかく衣装はできた。後は小道具や大道具を揃えて。

石井　何、小道具って？

岩村　拡声器にジャッキ、バール、チェーンソー、それから……。

古田　本格的だな。

石井　お金、かかりそう。

宮本　問題は有志のチーム参加者がどのくらい集まるかです。

岩村　最低三十人はいるな。

入り口に男。おどおどとした、いかにも気の弱そうな中年（五十代）。

中年男　あの……。

飯田　はい。

岩村　防災チームの参加希望者かい？

石井　違うわよ。

飯田　引越されてきた方？

中年男　いえ。

石井　おうちを訪ねられてきたのよ。

飯田　お名前は？

中年男　私、ですか？

飯田　お訪ねになる先の。

中年男　それが……わからないんです。

飯田　番地は？

中年男　それも。

岩村　名前も番地もわからんって、ほんとにここなの？

中年男　それは確かなんです。フラワーパー

クってことだけは。

古田　失礼だが、あなたは？

中年男　あ、私、こういうものです。（名刺を飯田に渡す）

飯田（名刺を読む）アトラス産業、総務課課長、渡邉、さん。

岩村　何を扱ってるんだい？

渡邉　浄水器を……。

石井　ああっ！

古田　何だよ、びっくりした。

石井　おたく、浄水器の訪問販売でしょ。すごく高いのを買わせる。

岩村　ええっ！

宮本　高齢者を狙った悪質商法の。

古田　（渡邉に）そうなの？

渡邉　はあ……まあ、その……。

岩村　はあだと、この野郎、ふざけんな！俺たちゃ自治会の役員だ。そこへのこのこ来やがって。何だ、騙しやすい老人の家を教えろとでもいうのか！

渡邉　いえ、そんな。

岩村　俺はな、ここの防犯部長だ。年金で細々と暮らしてる年寄りを騙すおまえらみたいな悪党は許せねえ。ぐずぐずしてると、てめえの口に浄水器とりつけてやるぞ。

渡邉　違うんです。

岩村　違わねえよ！

渡邉　私、営業ではありません。総務です。

岩村　悪党の仲間にはかわりねえだろ。

渡邉　人を捜してるんです。

古田　人を？

渡邉　営業マンが行方不明なんです。それも三人。

岩村　売り上げでも持ち逃げしたんだろ。

古田　それがこの町とどういう？

渡邉　三人とも最後に訪れたのが、ここなんです。それは間違いないんです。でも、それっきり。

石井　それっきり？

渡邉　消えてしまいました、煙のように。

岩村　うそうそうそ、俺は騙されんぞ。
渡邉　ほんとうなんです。ほんとうに。
宮本　警察へは？
渡邉　届けましたが、まだ事件じゃないんで捜査は……。
宮本　三人がいなくなったのはいつですか？
岩村　宮本さん、相手にするなよ。
渡邉　一人は一か月前、二人目は二週間前、三人目は三日前です。
宮本　あなたは、その三人がこの町のどこかにいるはずだと。
古田　ここらに隠れて住むようなところなんてないだろ。
石井　空家、たくさんありますよ。
飯田　七軒。
渡邉　隠れなきゃならないような悪いことはしていないと……。
岩村　十分悪いよ、おまえら。みんな、ほっとけ、自業自得だ。
渡邉　……人間です。訪問販売やってたって人間です。家族もいるんです。パパがいなくなったって、泣いてる子供もいるんです。それを、それを……あんまりだ（泣く）。
石井（たしなめて）岩村さん。
岩村　だってさ……。
宮本　ここには人が迷い込むようなところはありませんよ。そんなことがあったら、誰か気づくはずです。
渡邉　そうは思うんですが。
古田　だからさ、その、何か手がかりがあったら、あなたに連絡するから、ね。
渡邉　よろしくお願いします……では。

渡邉、何度も頭を下げ、退場。

岩村　みんな甘いんだから。
宮本　木村のババアさん、知りませんかね。
石井　いくら生き字引でも、訪問販売のことまで知らないでしょ。
飯田　毎朝新聞の配達にベトナムの留学生で

ホワン君って子がいるの。

石井　あの子、ベトナム人なの？

飯田　ホワン君には双子のお姉さんがいて、鼻の下に黒子のあるお姉さんの旦那の従兄は、ホンダのバイクを三台持ってるんだけど、一台は中国製のコピーなんだって。

石井　何、それ？

飯田　木村のババアが聞いたって。

宮本　……知ってるかも。

5

古田（客席に向かって）こんにちは、あれからどうです。そうですか、そりゃあよかった……挨拶は地域社会を結ぶ大切なコミュニケーション。お互いを知るはじめの一歩です。俺は、私は……そう、中国語を習う老人です。ニイハオ。いや、中国語を思い出そうとしてる老人かな……十三歳まで大連にいて敗戦直前に戻ってきました。母親の郷里が福島の山の中で、父は技術者だったんですが本家からわずかな畑を分けてもらい、戦後はずっと百姓をしていました。私は十八歳で上京したから、五年しかいなかったし、正直あまりいいことはなかった。文無しの引揚者一家には、いいふるさとではなかった。大連での暮らしの方がずっと楽だった……でも景色がどんなだったか、仲のよかった中国人の友だちもいたはずなのに、名前すら思い出せない。すべてぼんやりと……福島の田舎の方が頭に染み付いている。よそ者扱いされ、いじめられて、ろくなことなかったのに。山や川、四季の景色が眼に焼きついている。意地悪なやつらの顔も名前もはっきりと……中国語、しゃべれたんですよ。なのに忘れてしまった。七十歳になって、市民文化講座で中国語やるって市報に載ってたんで申し込んだんです……張さんといい

ます。講師の先生。女の人です。「古田さん、発音がいいですね」って（笑）……張先生、ときどきすごく悲しそうな顔するんですよ。ほら、不法入国してピッキングとかする人たちがいるから。同じ国の人だからって、先生が気にすることないっていったら、「気にします。とても恥ずかしい。日本人も、日本人のしたこと、してること、もっと気にするべきです。恥ずかしがるべきです」って……張先生、大連の知り合いの誰かに似ている。思い出せない。中国語がうまくなれば思い出すかもしれない。大連の景色も友だちも、楽しかったことも、嫌なこともみんな……ツアイチェン、大連を離れるとき誰かがいいました。ツアイチェン。

6

自治会集会所。宮本と文化厚生部長の土橋（六十代の女性）。

土橋　公募にしようと思うのよ。

宮本　公募ですか。

土橋　賞金五万、いや十万円ね。

宮本　石井さん、認めてくれませんよ。

土橋　節約して繰越金を増やしたってしょうがないわよ。また自治会費値下げしろって話になるわ。岩村さんのだって特別会計になるんでしょ？　防災のあれ。

宮本　防災チームの結成に反対はないです。地震は関係ないって人はいませんから。

土橋　同じだわ。地域を大事にするってことでしょ。ふるさとの意識を持つことでしょ。でも、ニュータウンではそういう気持ちを持つことは難しいわ。だからね、だからこそ、共通の何かが必要なのよ。

宮本　夏祭りがあるじゃないですか。

土橋　あれだけでしょ、あれだけなのよ。で

もあれだって、特別なあれじゃないでしょ。

宮本　ふるさとの歌をつくって、いつ、どこで歌うんですか。

土橋　合唱団をつくってもいいし。宮本さん、小学校の校歌、今でも覚えてるでしょ。

宮本　二番は自信ないけど。

土橋　小学校の頃のこと、思い出すでしょ。

宮本　それは、まあ。

土橋　ね、だからふるさとの歌、フラワーパークの歌なの。それも住民の作詞、作曲で。子供たちも、お年よりも歌えるやつを。

宮本　はあ。

土橋　みんなの歌、みんなの歌なの。すてきだと思わない？　賞金ってのはちょっとひっかかるかも知れないけど、その方が良いのが集まるし、話題になるでしょ。

宮本　集まりますかねえ。

土橋　大丈夫。それより広報部長、今度のフラワーパークニュースの一面に、どーんと載せて。フラワーパークふるさとの歌、大募集！　賞金十万円をあなたがゲット！

受付に木村のババア（八十代）。

木村　ちょっと、誰かいるの？

宮本　はーい。（出て行く）

木村　（横柄）事務員、いないのかい？

宮本　今、回覧板を回しに出かけてます。すぐ帰ってくると思いますよ。ずいぶん前に出たから……どちら様？

木村　木村だよ、木村のババアだよ。みんなそういってるんだろ。あんたは？

宮本　宮本といいます。

木村　役員か？

宮本　広報部長を。

木村　平日のこんな昼日中に何でいるんだ？　まだ年金もらうような歳じゃないだろ。

宮本　失業中なもので。

木村　おや、土橋さんちの嫁もいるのか。

土橋　こんにちは。

木村　お義母さん、元気かい。
土橋　元気です。
木村　さっさと特養に放り込んで、元気もないもんだ。たまには面会に行ってるのかい。
土橋　行ってます。
木村　どうだか……ああ、それより、あんたら役員なら、何とかしておくれよ。
宮本　何をですか？
木村　工事だよ、工事。
宮本　工事の音がうるさい？
木村　おかしいんだよ。
宮本　おかしい？
木村　よくわからないけど、変なんだよ。
宮本　（地図を見ながら）えーと、木村さんはここですね。どこの工事なんですか？
木村　ここと、ここと、ここ。
宮本　四軒一度に？　新築ですか、それとも改築？
木村　改築じゃない。増築なのかな、あれは。
宮本　山田さん、山形さん、山崎さん、山内さんか。
木村　工事してるのは、その四軒がくっついてるところなんだよ。
宮本　それぞれ別じゃないんですか？
木村　だから変だと言ってるだろ。工事は一箇所。それが四軒の境、ちょうどまんなかあたりなんだよ。
宮本　共同で何か建てるんですか？
木村　知るもんか、そんなこと。
宮本　木村のバ……木村さんでもご存じないことあるんですね。
木村　そりゃ、どういう意味だい？
宮本　（ごまかして）　共同の勉強部屋？　物置？　露天風呂？　何だろうなあ。
木村　あの連中はここ一年の間に越して来た新入りなんだけど、近所とは全くつきあわないんだ。回覧板は滞るし、ゴミ当番はやらないし、募金にも子供会の廃品回収にも協力しない。フラワーベルトもやってないんだろ？　あそこだけ花がない。

宮本　なるほど、そういう人たちが集まってるのか。しかし、何を……。

土橋　この町には建築協定があるのよ。集合住宅はダメだし、三階以上は建てられないし。あまりおかしなものは……。

宮本　おかしなものって？

土橋　わかりませんよ、私なんかに。

木村　穴を掘ってるんだ、かなり深い穴を。

宮本　穴……ですか。

土橋　副会長に相談したら？　諸問題調整担当なんだから。

宮本　あれは隣家同士のトラブルを扱うんです。四軒がもめてるわけじゃなさそうだし、工事による多少の騒音はお互い様だし。

木村　とにかく、ちゃんと調べてよ。

宮本　伝えておきます。

木村　頼むわよ。何だかこの町、年々おかしくなっていくわ。

木村、退場。入れ替わりに飯田。

飯田　ただいま。

宮本　飯田さん、今、木村のババアさんが。

飯田　知ってる。だからそこに隠れてたの。何だって？

土橋　（地図をさし示し）ここの人たちがね、穴を掘ってるんだって。

飯田　穴？　何か埋めるの？

宮本　何か建てるんじゃないんですか、たぶんそのための地盤整備かなにかを。

飯田　木村のババアの言うことなんだから、まともにとりあげちゃダメ。気になることは自分で勝手に調べるわよ。

宮本　この四軒、全部苗字に山がつくんですよ（笑）、知ってました？

飯田　知ってるわよ。でもそこだけじゃないわよ。ほら、ここ見て（地図上を指し）。

土橋　あら、山岸、山野、山岡、山口。ここも四軒くっついてる。不思議ね。

宮本　僕も見つけました。ほら、ここ。山本、

山岸、山瀬……惜しい、三軒か。

飯田　この隣、例の副島さんの家よ。

宮本　そうか、ここに山がつく人が入れば揃うなあ（笑）。

飯田　あそこは売れないわよ。

土橋　もう何年にもなるじゃない。それに副島さん、病気であれなんだから。自殺とか犯罪ならいやだけど。

地図をじっと眺めている宮本。

飯田　宮本さん、どうかしたの？

宮本　いや、何でも……。

7

自治会集会所。

古田　土橋さん、そりゃまずい。

土橋　でもね　副会長。ティーチャーズクラブが協力してくだされば、いろいろスムーズにいくんですよ。

稲葉　ティーチャーズクラブがどうしたの？

古田　土橋さんの、ほら、フラワーパークふるさとの歌の募集なんだが。

稲葉　やめろって？

土橋　違うの。審査員をしたいって。

稲葉　審査料よこせっていうわけじゃないんでしょ。なら、やらせれば。好きなのよ、答案に○×つけるみたいのが。

古田　でもなあ。

稲葉　どうせ、審査員を選ばなきゃいけないんでしょ。私たちじゃ、歌のよしあしなんてわからないんだし。

土橋　ことわったりしたら、きっとめんどうなことになると思うんです。

稲葉　ぶつからない方がいいですよ、彼らと。

飯田　私は反対です。二年前の塾だって、結局おかしなことになったでしょう。

宮本、ポスターを持って現れる。

宮本　（ポスターを見せて）土橋さん、どう？　昨日徹夜しちゃった。

飯田　宮本さん、奥さんに嫌味いわれない？

宮本　えっ、何を？

土橋　いいです、いい出来です。

宮本　僕ね、大人じゃなくて、子供たちからの応募があるんじゃないかなって。

飯田　ほら、ティーチャーズクラブのペースになってきた。

宮本　ティーチャーズクラブが何か？

古田　土橋さん、審査員にしちゃったんだよ。

飯田　花園塾の二の舞にならなきゃいいけど。

宮本　塾？

稲葉　花園塾ってのをつくったのよ、あの方々の主催で。土曜が休みになったでしょ。それで、地域で子供たちを受け入れる体勢をつくりましょうってことになったわけ。

宮本　僕、子供いないから。

飯田　その音頭をとったのが彼ら。ニュータウンの小学生を集めて塾を開いたの。

宮本　英語の？　算数？

稲葉　あの人たちにいわせると、今までの学校教育にない新しい概念の教育、超教育。

宮本　何ですか、それ？

稲葉　例えば、子供たちに詩を書かせるんだけど、普通のやり方じゃないの。

宮本　普通じゃないやり方って何です？　原稿用紙でなく地面に書くとか……。

稲葉　原稿用紙に鉛筆で。

宮本　普通じゃないですか。

稲葉　手を縛るの。

宮本　手を？　それじゃ、書けない。鉛筆、持てないじゃないですか。

稲葉　手が使えないとしたらどうする？

宮本　口にくわえるか、足の指で……まさか。

稲葉　それも原稿用紙からはみでないように書かなきゃいけないからたいへん。

宮本　そんな曲芸みたいなことして、何の意味があるんです？

稲葉　不自由な、抑圧された状況からこそ心を打つ詩は生まれるんだって。

宮本　そりゃ乱暴だ。

稲葉　あの方たち、現役の頃かなりフラストレーション、ためてたんじゃないかしら。

飯田　きちんと書けるまで家に帰さないの。親が迎えにいってもとりあわないの。

古田　うちの孫も最初は面白そうだなんていってたが、そのうち嫌がるようになった。

稲葉　詩が書けたら今度は発表するの。この町の知らない家を訪ねて、自分の詩を聞いてもらうの。ピンポーン、「こんにちは、私の詩を聞いてください」。

宮本　詩の押し売りですか。

稲葉　ことわられても、あきらめず食い下がるの。「私の詩を聞いてください。インターフォンで聞いてくださっても結構です。お願いします。聞いてもらえないと、家に帰れないんです」泣きそうな声を出すものだから、しかたなく聞いてくれるお年寄りもいるんだけど。玄関先で、詩の朗読が始まるのよ。『私の夢』とか、『弟とケンカした日』なんて詩を大声で読むの。

飯田　読んだらその家の人に感想を書いてもらい、印鑑を捺してもらうの。

宮本　異様な光景ですね。

稲葉　すべてがこんな調子。やりたいようにやれるのがうれしくてたまらないようすだったわ。子供は嫌がるのにお構いなし。出てこなくなると、一軒一軒回って呼び出すの。子供はおびえて押入れに隠れてるのに、家に上がり込んで……。

宮本（急に大声で）悪い子はいねえが！　泣く子はいねえが！

土橋　何です、それ？

宮本　なまはげの真似。秋田の。

飯田　宮本さん、長野県でしょ。

古田　自分たちの仲間の作品を採用するつも

りじゃないのかい？

土橋　それ、大丈夫です。審査員、並びに家族は応募資格なしということで……。

電話。飯田出る。

飯田　はい、自治会室……ああ、斉藤さん……いえ、迷惑だなんて……。

スポット。

斉藤のばあさん。受話器を持っている。声はない。深刻な表情。

飯田　はい、富士見ヶ原の、バス停の方向ですか、富士見ヶ原ですね……ええ、ちゃんと伝えてあるんですが。でもいまのところはい、そうですが……ええ、みなさんに……わかりました。はい、いつもありがとうございます。

スポット、消える。

稲葉（飯田に）斉藤のおばあちゃん？

飯田　ええ、今度はバス停の方からにおうって。

古田　先週、一人暮らし高齢者のお宅は全部まわったが、異常はなかったぞ。

宮本　全部で五十七人です。八十歳以上も十五人。

稲葉　見回りは定期的にやるべきなんだろうけど。

宮本（地図を見ながら）この前はアカシア公園の方から……今度は富士見ヶ原のバス停の方向か……まるで違うな。

8

石井（客席に向かって）こんにちは、雨が続いて嫌ですね。洗濯物がたいへん……挨拶

は、地域社会を結ぶ大切なコミュニケーション。お互いを知るはじめの一歩です。私は……そう、空っぽの鍋です。子供は二人いて、娘はアメリカです。ケンタッキー州の田舎。ホームステイなんか引き受けたのは間違いでした。ジェイソン……好青年でした。彼、納豆もイカの塩辛も食べたし、オイチョカブも般若心経も覚えました。浅草にも鎌倉にも草津にも連れて行きました。私のこと日本のおかあさんだって……娘が向こうにいったんです。半年の予定が一年になり、二年になり……いやな予感がしていたら案の定。結婚したいって、ジェイソンと。ダメとはいわないけど、帰国して説明しなさいっていったら、実はもう結婚式すんだって。ウエディング姿の写真送ってきて。こっちの親戚のこともあるんだから一度帰りなさいっていったら、妊娠七ヶ月だからって……結局、赤ん坊の写真送ってきただけ。もう三歳になるんじゃないかしら。初孫なのに一度も抱かせてもらえない。おばあちゃんなんて呼んでもらえないんでしょ。グランマとか……主人、子会社へ単身赴任です。たまに帰ってきますが、会話、全然ないですし。息子は太鼓。和太鼓の、なんとかいうグループに入って……一流大学出て、商社に入ったのに一年でやめちゃった……日本中、太鼓かついで回って正月だって帰ってきません。一度、観に行ったんです、内緒で。そしたら舞台の端っこで、これっくらいの小さな太鼓、たたいてるんです、トンツクツって。情けなくなっちゃった……娘はとうもろこし農家の嫁、息子はトンツクツ。亭主は……私はずっと器だったんです。いつも何かが入ってた。あったかいのも、つめたいのも、脂っこいのも、いろいろ。でも今は空っぽです。たぶん、この先ずっと。

9

自治会集会所。古田、宮本、岩村。
机の上にチェーンソー。

古田　それがチェーンソーってやつか。素人にも扱えるのかい。
宮本　訓練が必要ですね。僕、やれるかな。
岩村　大丈夫だよ。いざとなりゃやれるもんさ。こいつがあれば、壁でも屋根でもぶちあけてさ、中の人を救助できる。神戸の震災ときにゃ、自衛隊がのこぎりでギコギコやってたっていうからな。あきれちまうぜ。それじゃ助かるもんだって助からん。

宮本、スイッチを入れる。すごい振動にあわてて止める。

宮本　びっくりした。
岩村　宮本さん、機械、強いんだろ。
宮本　機械じゃないですよ、こんな野蛮なものは（笑）。
古田（岩村に）メンバー、どう？
岩村　頭数だけは揃えたんだが、会合開くのもたいへんだ。土曜は困るの、日曜は都合が悪いのって。スケジュールが……。
宮本　救急講習、やるんでしょ。
岩村　ああ。俺、救急講習の上級ってやつ受けたことあるんだ。消防署に行って。
宮本　じゃあ、講師だね。
岩村　もう忘れちゃったよ。テキスト、あるんだけど……よし、ちょっとやってみるか。宮本さん、相手して。
宮本　僕が？
岩村　人形のかわり。

岩村、宮本をベンチに寝かせる。

宮本　怖いなあ。
岩村（古田にテキストを渡し）悪いが、ここ

から読んでくれるかい。
古田　人工呼吸の手順ってやつだな……ええ……まず、体を揺り動かしたり、たたいて、意識を確認する。
宮本　（頬を叩かれ）痛いですよ。
岩村　人形は静かに。
古田　顔を近づけ、呼吸しているか確かめる。
岩村　（顔を寄せ）呼吸してない。
古田　停止しているときは気道に異物や吐しゃ物がないか確かめ、あれば指で除去する。

岩村、指をつっこもうとする。

宮本　（怯えて）岩村さん。
岩村　真似だけだよ。
古田　次に、気道の確保。
岩村　どうやるんだっけ？
古田　うなじに手をあて持ち上げ、もう片方で額をおし、首をうしろにそらせる。
岩村　（やりながら）……首をうしろに。
宮本　痛い、痛い。もっとやさしく。
古田　人口呼吸の手順。鼻をつまんで素早く四回息を吹き込む。

岩村、顔を近づける。

宮本　本気でやらないでくださいね。
岩村　やらねえよ！
古田　胸が十分に膨らむまで……。

飯田が入ってくる。

飯田　（大声）わっ！
宮本　わっ（急に起き上がり、岩村と激突）。
岩村　いてっ！
飯田　何してるんですか、男同士で！
古田　人口呼吸の練習だよ。
岩村　……ああ、鼻血が出ちゃった。
宮本　すみません。急に大声出すから。
飯田　変なことしてると思って……。

岩村　するわけないだろ！

飯田　副会長、例のあれ、どうでした？

古田　あれはな、アンテナらしいんだ。

宮本　何？

飯田　ほら、34ブロックの工事の件。

古田　ええ、誰だっけ……山田、山田さんに聞いたんだが、アンテナが立つんだってさ。

宮本　アンテナ？

岩村　無線だよ。ハムってやつ。俺らが子供の頃に流行ってた。免許がいるんだ。

宮本　僕もちらっと見ましたが、土台がずいぶんしっかりしてた。何か本格的なものが立つと思ったけど、アンテナか。

古田　向こうがそう言うんだから。

宮本　ということは、四軒がそのアンテナを使って、ハム無線をやるんですか？

古田　そうなんだろ。住居ではないから、建築協定にはひっかからないんだ。

岩村　回りは日陰になるんじゃないか？

古田　木村のばあさんの家は南側だから日陰にはならん。文句はいわんさ。

宮本　階段がついてるんですよね。

岩村　そりゃいい、自治会でも使わせてもらおうよ。

古田　何をしようっていうんだい。

岩村　火の見櫓みたいにさ。そこへ上れば町全体が見渡せるわけで、防災の役に立つ。なんだったら鐘か太鼓でもつけて……。

宮本　アンテナを立てるにしては、お金をかけすぎのような気がしますが。

岩村　趣味には金を惜しまんやつがいるんだ。

古田　あの四軒、フラワーベルトに入っていないんだ。

岩村　へんくつな野郎どもの集まりか。

宮本　全員、苗字に山がつくし。

飯田　あの、19ブロックなんですが……。

古田　19ブロックがどうした？

飯田　回覧板回すとき見たんですけど、あそこにもあるんです。同じようなのが。

岩村　同じのって？

飯田　穴です。深い穴。34ブロックの山田さんたちのところにあったような。それがまた、四軒のちょうどまんなかに。

古田　ええっ！

宮本　19ブロックって、もしかして……（地図を見る）やっぱり。

岩村　なんかあるの？

宮本（飯田に）　山岸、山野、山岡、山口さんのまんなか？

飯田　この四軒もフラワーベルト不参加です。

宮本　それで苗字に山がつく（笑）。

岩村　なんなんだよ。ここもへんくつ者がかたまって住んでいるのかい。

宮本　34ブロックと同じようにアンテナなんでしょうか？

古田　うーん。

岩村　ハム、また流行るのかなあ。

10

自治会集会所。

飯田　副会長のせいじゃないですから。

古田　こういう結末しかないのかね。

飯田　まだまし。ほら、隣の奥さんを鉄砲で撃ったなんて事件があったじゃないですか。

古田　布団をたたく音がうるさくて、だろ。

飯田　いろんなことの積み重ねがあったはずですよ。事件を起こした旦那さんが、会社をやめて昼間家にいるようになってから諍いがエスカレートしたんです。

古田　うちの隣の猫がね、庭をほじくって、せっかく植えた球根をだめにしちゃうんだ。家内に聞いたらずっと前からだってさ。

飯田　そういうのが、たまっていくんです。

古田　飯田さんのところは大丈夫？

飯田　左隣とは口もきかないですね。最初は些細なことだったんです。田舎にお葬式が

あって、四日ほどあけたんです。その間、回覧板が止まっちゃって。

古田　文句を言われたんだ。

飯田　うちが悪いんですよ。しばらくあけるって言っとけばよかったんですが、なんせ急だったから……帰ってきたら、回覧板が回らなくてえらく迷惑したって。

古田　そんな重要なお知らせがあったの？

飯田　フリーマーケットのお知らせ。出店したかったらしいの。でもフリマなんてしょっちゅうあるんですよ。それをねちねちと。それ以来、何もかも癪にさわるんです。いつだったか、洗濯物が風でとんできたんです。年甲斐もなくぴらぴらした下着。庭に落ちてたけど放っておきました。拾って届けてやる義理もないし、そんなことしたってお礼どころか、お宅の息子が盗ったんじゃないのなんて顔されるに決まってる。

古田　右隣とは問題ないの？

飯田　いまのところ。でもこれからはわかりません。来年、うちの子、私立の中学受けるんです。お隣は受けないみたいだから。

古田　どこも隣同士は難しいんだ。

飯田　隣だからですよ。隣じゃなきゃ結構うまくやれるんです。この町、いい方多いですもの。おかしな人や意地の悪い人なんてごくわずか。でも、隣になるとダメ。隣同士って、そういうものじゃないですか。隣と仲のいい家なんてないんです。

土橋、入ってくる。

古田　土橋さん、幹部会は明日ですよ。

土橋　二時半からでしょ、知ってます。

古田　二時からです。

土橋　加藤さん、引っ越すんでしょ。

古田　……。

土橋　隣の田村さんに追い出されるようなものでしょ。

古田　それを言っちゃあ……。

土橋　何とかならなかったんですか？

古田　調停も十年越しなんだよ。歴代の会長の悩みの種だったんだ、あの二軒は。こじれにこじれて修復不可能なんだよ。

土橋　喧嘩両成敗なら両方引越ししなきゃ。

古田　加藤さん、もう嫌になっちゃったんだよ。ずっと売りに出してたんだけど売れなくて。それがやっと買い手がついたから。

飯田　行き先、決まってるんですか？

古田　都内のマンション。一戸建てはもうこりごりだって。

飯田　マンションだってお隣はありますよ。今度は壁を隔てただけなんだし。

土橋　買い手がついたってことは、引っ越してくるんでしょ。どなたか知りませんが、また田村さんともめるんじゃない？

古田　そんな。

土橋　また同じことの繰り返し。

古田　土橋さんは加藤さんの肩を持たれるが。

土橋　副会長は田村さんの味方？

古田　どっちでもない。入院した会長さんも、その前の会長さんも。ただね、正直ほっとしてる。もう話して修復することなんてないから。唯一の解決法は離れること。知らなかったけど、これまでもずいぶん隣同士の諍いで引越ししたんだね。

飯田　もめてるところ他にもありますよ。

土橋　間に塀をつくればいいのよ。うんと高く、三メートルぐらいの。声もにおいも通らないような、厚くてがっちりしたやつを。

古田　鉄条網でもつけるか（笑）。

土橋　監視カメラをつけてる家、あるわよ

古田　隣を監視するために？

土橋　泥棒や押し売りの対策ですけど、これが結構役に立ってるの。

古田　そんなに泥棒が多いのかい。

土橋　犬ですよ。犬のおしっこやウンチ。片付けない人、多いんです。同じ所でするでしょ。私の家の前もしょっちゅう。でも現場をおさえることなんて無理だし。

飯田　カメラならばっちり。

土橋　動かぬ証拠。

古田　それじゃお互い気まずくなるだろ。

土橋　写されてるかも知れないと思えば、片付けるようになるんです。

古田　情けないなあ。

飯田　（土橋に）ねえ、何か用事があったんじゃないの？

土橋　ふるさとの歌、集まり具合はどうかと思って。

飯田　締め切りはまだ先でしょ。

土橋　せめて十件くらいは応募がないと、格好つかないわ。

飯田　十件は厳しいんじゃない。

11

稲葉（客席に向かって）こんにちは、お忙しそうですね。今日はどちらへ。挨拶は地域社会を結ぶ大切なコミュニケーション。お互いを知るはじめの一歩です……私は……そうね、三人と三千万円かな。三人は子供で十三と十一と九歳、女、男、女。三千万は借金で千八百は住宅ローンの残り、千二百は主人の弟の借金の肩代わりです。子供たちもこれからお金がかかるからローンのようなもの……何だかこれからの人生、借金返済のための人生のような気がします。子供や住宅ローンはともかく、千二百万は予定にはありませんでした。弟が失踪して、主人は私も子供も怒らなくなりました。お酒も飲まなくなりました。趣味の釣もやめました。仕事が終わると、早く帰ってきて早く寝ます。休みには何もせず、じっとしています。体を大事にして、病気をせず、けがをせず、クビにならないよう一生懸命働いて、借金を返すんだといいます。私も働いてます。保険の外交、便利屋の手伝い、お歳暮の宅配、ホームヘルパー、

ビラ配り、テープ起こし……でも借金はなかなか減りません。七十歳すぎまで働かなきゃいけないかも……この家、売ってしまおうかと思ったことあります。でもここらもずいぶん安くなってしまって、売っても借金はなくならない。半分がいいとこ。そりゃ、半分になれば半分気持ちが楽になる。半分になれば主人だってもっと明るくなって、たまにはお酒だって飲みたいって言い出すかもしれない。でもね、そうなると今度は家のことばかり考えて暮らすようになる……だからぼろ家になっても、せめて家があることを支えにやっていくのが賢明だと思うの。この町の住人にも、うちより金食い虫が多くて、ローンの残債も多くて、おまけに介護しなきゃならない親がいて、亭主の事業が傾いてなんて人もいるでしょう。でも、そんなこと外からわからない。どんなに辛くても平気な顔して、公園の一斉清掃では一緒に落ち葉をはいている。「いやねえ、風が吹けば落ちてくるんだから、きりがないわよ」なんて言いながら。きりはあるんです。落ち葉は永遠ではないから、いつかは落ちきってしまう。そう思わなきゃ。

12

自治会集会所。渡邉が入ってくる。

飯田　あら。

渡邉　どうも。

岩村　また来たの？

渡邉　すみません。

岩村　宮本さんが回覧板、回したんだぜ。あんたが気の毒だって、似顔絵までつけて。

渡邉　すみません。

飯田　こっちへは何の情報もないわよ。

渡邉　私どもには一件。

岩村　あったの？　誰から？

渡邉　わからないんです。会社の方へ差出人不明の郵便がきて、封筒の中に手帳が入っていたんです。二番目に失踪した男のが。

飯田　入っていたのは手帳だけ？

渡邉　はい。（封筒を二人に見せる）

岩村　会社の住所は手帳にあったんだ。

渡邉　はい。

岩村　あやしいな。

渡邉　消印から、やはりこのあたりかと。

飯田　この町の人とは限らないでしょ。

岩村　お宅の営業マンの失踪に関わったやつの仕業か？

飯田　（岩村に）何でそんなことするの？

岩村　わからん。

渡邉　おそらく拾ったんだと思います。

岩村　拾ったんならさ、堂々と自分の名前を書けばいいじゃないか。お礼にお菓子ぐらい送ってくるかもしれないんだし（笑）。

飯田　もし私がその手帳を拾ったら、やっぱり送るでしょうか？

渡邉　普通、電話をされるのではないでしょうか、落ちていたと。あるいは交番に。

飯田　ということは、拾った人は中身を読んで、それが誰のものかわかったということ。

岩村　そりゃそうだろ。いろいろ書いてあるんだろうから。

飯田　手帳の主が浄水器の営業マンで、しかもこのニュータウン周辺で行方不明になったことを知っていた。

渡邉　私もそう思います。

飯田　宮本さんの回覧板を見たかも。

岩村　俺にはさっぱりだ。

渡邉　拾った方は、うちの営業マンの行方について何か知ってるのでは。

岩村　なら、自治会にでも警察にでも連絡してくれればいい。

渡邉　そこが不思議なんです。

岩村　結局わからねえんじゃねえか。おい、（封筒をさし）これ、コピーしていいか？

渡邉　かまいませんが。

飯田　何するの？

岩村　住民アンケートの用紙、まだ捨てないで残してあるだろ。

飯田　筆跡鑑定？　刑事ドラマの見すぎ。

渡邉　そういうものがあるなら。

飯田　お貸しすることはできません。

岩村　飯田さん、暇なときに。

飯田　（きっぱり）暇なんてないです。

古田、入ってくる。

古田　おい、見たかい。19ブロックの、あれを……（渡邉に気づき）おや、あんた。

渡邉　お邪魔してます。

古田　見つからないの、会社の人。

岩村　（古田に）どうしたの？

古田　19ブロックのあれ、やっぱり34ブロックのあれと同じものだ。

岩村　同じか……。

古田　19ブロックのあれよりやや低いが。

渡邉　あの、あれって？

岩村　アンテナだよ。無線のアンテナを立てる連中がいるんだよ。

渡邉　無線、ですか？

岩村　ハムだよ、ハム。何だか急に流行りだしたらしくてな。二箇所で櫓みたいなものをぶったて始めたんだ。

飯田　三箇所になるかも知れませんよ。

古田　どういうことだい？

飯田　空き家だった副島さんのところに引っ越してくるの。

岩村　副島さんのとこに？

飯田　引っ越してくる人の名前、山川さんっていうんです。

古田　山川。

岩村　山川か。

渡邉　山川は何かまずいんですか？

岩村　山が揃うんだよ。（地図を見ながら）山本、山城、山瀬、山川。

古田　山本？　そこには山本がいるのか！

飯田（岩村に）ほら、引っ越してくるなり副会長を怒らせた人。

岩村　あの生意気な野郎がいるのかい。

古田　ここにもあれが立つのかな。

岩村　立つぜ、きっと（笑）。

渡邉　あれってのは、高いものなんですか？

岩村　帰りに見ていきなよ。（地図をさし）場所はここここ。

渡邉　なるほど、山が揃うとはこういうことですか。みんな苗字に山が……山か。

古田　高いのは二十メートル。低い方でも十五メートルはあるんじゃないかな。

渡邉　そんな高いもの、ふらふらして危なくないですか？

岩村　それがあんた、土台をがっちりつくってさ。ちょっとやそっとの風で倒れるような代物じゃないんだよ。それに螺旋階段だぜ。ああなると、櫓なんてもんじゃねえな……いうならば、あれだ（思いつかない）。

渡邉　……塔、ですか。

岩村　そう、それ、それ。塔、塔だよ。

古田　塔か……そうだなあ。

渡邉　てっぺんに上れるんでしょう？

古田　最初のやつは上れるようになってるみたいだ。二番目のやつは、どうかな。でも少し低いだけで形は同じだし。

渡邉　立てた方たちは無線のアンテナだといってるんでしょ。だったら階段なんてつける必要があるんでしょうか？

岩村　アンテナの修理が楽だってことだろ。

渡邉　アンテナのためではないような気がします。アンテナもつけるかもしれませんが、目的は別にあるのでは。

古田　じゃあ、あれは何のためなんだ？

岩村　だから、塔なんだろ（笑）。塔のてっぺんからあたりを眺めるんだよ。あそこからなら、ずいぶん遠くまで見えるぞ。秩父の山系はいうに及ばず、都心のビル群も一望だ。いや、もっと先の……。

飯田　景色を眺めるためなんですか？

岩村　知らないよ。他人の趣味の問題なんだから。税金でというなら話は違うがな。

渡邉　この町も一望ですね。

岩村　ああ、そうだ。副会長、物見に貸してくれないか交渉してくれた？

古田　あそこの連中、いついっても留守なんだ。電話も通じないし。

岩村　防災の役に立つんだがな……。

渡邉（飯田に）三本目が立ちそうなのはここですか？（地図をさし）

飯田　ええ、でも……。

渡邉　こことここ、そしてここ。

飯田　あら。

古田　どうした。

飯田　だって、ほらこの三箇所をつなぐと正三角形になるんですよ。

岩村　ほんとだ。

渡邉　三角……。

13

土橋（客席に向かって）こんにちは、あら、いいセーター。ご自分で？　上手ねえ。挨拶は地域社会を結ぶ大切なコミュニケーション。お互いを知るはじめの一歩です……私？　私、病気のデパート。血糖値二百七十。血圧１６０と９５。コレステロールも高いし、リウマチも。大腸のポリープもとり、胆石の手術二回。不整脈があります。白内障で逆さまつげ、歯周病で外反母趾で巻き爪で水虫で、膝の水を月に一度抜きます。偏頭痛持ちで花粉症で胃下垂で痔で腱鞘炎で、四十肩をやった後、五十肩になり、更年期障害も長く、軽いうつ病にも……（息を切らし）それから息切れがします。まだあると思いますが、物忘れがひどくて……診察券は全部で十二枚、月曜から金曜までどこかの病院に行っています。一

日三箇所梯子することも。通院だけでは交通費がもったいないのでカルチャーセンターに寄ります。講座と診療科目がセットになっていて整形外科と源氏物語、皮膚科とフラワーアレンジメント、眼科と太極拳、内科とパソコン、歯科と不動産鑑定士、肛門科とお菓子教室……こんなに忙しくしていると、いつか倒れてしまうんじゃないかしら。錠剤、坐薬、湿布に塗り薬、目薬、うがい薬を食前食中食後、就寝前に起きがけにと一日中薬三昧。薬でおなかがいっぱいになるわ。あ、忘れてた。耳鼻咽喉科の受診日にはタロットカード占いを習っているの。

14

自治会集会所。宮本が入ってくる。

飯田　（気づいて）宮本さん。

宮本　どうも。

飯田　全然顔出さないから。

宮本　就職活動で。

飯田　決まったんですか？

宮本　小さなところだけど、この歳だと贅沢いってられないし。たまたま面接担当が長野県人だったんで。

飯田　聞いたでしょ。

宮本　ええ、斉藤さんのおばあさんの。

飯田　たいへんだったんだから。

宮本　フラワーパークニュースに載せた方がいいのかな。

飯田　何を？　斉藤さんの事件を！

宮本　ええ。

飯田　斉藤のおばあちゃん、ただ死んでたんじゃないんですよ。

稲葉、入ってくる。

稲葉　もういい加減にしてほしいわ。
飯田　今日も警察？
稲葉　（宮本に）何してたの？　こういうのあなたの出番じゃない。
宮本　幹部が呼ばれてるんですか？
稲葉　副会長と岩村さんと私。防犯部長はしかたないけど、私、関係ないでしょ。
宮本　ゴミ袋の中で死んでたから？
稲葉　冗談じゃないわよ。斉藤のおばあちゃん、ゴミじゃないっていうの。
宮本　殺人と断定されたんですか？
稲葉　そうなんじゃないの。わざわざゴミ袋にもぐりこんで自殺する人はいないわ。
宮本　事故という線は？
稲葉　……事故ってことはないでしょ。
宮本　犯人の手がかりは？
稲葉　いまのところゼロ。
宮本　斉藤のおばあさん、車椅子でないと出かけられないんでしょ。それも付き添いがいないと。それがどうして……。
稲葉　知らないわよ。午後の二時頃、娘さんが買い物で留守をしている間に消えてたの。見つかったときには……。
宮本　ゴミ袋の中。
稲葉　新聞もテレビもきて取材してるわ。
飯田　ヘリが飛んだときすごかったわよ。電話口でわめきちらしてた。
宮本　大ケヤキの、あの人？
飯田　頭の血管切れたんじゃないかしら。
宮本　斉藤のおばあさん、どこへ行くつもりだったんでしょう？
稲葉　悪いやつらに連れ出されたかも知れないじゃない。
飯田　車椅子、あったんでしょ、公園に。まさか車椅子ごと誘拐しないわ。
宮本　どこかへ行くつもりだったんですよ。
稲葉　どこへ？
宮本　それは……。
稲葉　よりによって、私たちが役員のときに。
宮本　これで終わるんでしょうか。

稲葉　どういうこと？

宮本　まだ何か起こりそうな。

稲葉　やめてよ。

宮本　誰か心当たりがあるかもしれない。

稲葉　何の話？

宮本　ですからフラワーパークニュースに。

飯田　まだ言ってるの。

宮本　犯人につながる何かを知ってる人がいるかもしれない。

稲葉　警察に任せておけばいいの。自治会が首を突っ込むことじゃないわ。

宮本　稲葉さん、警察に呼ばれたんでしょ。もう首を突っ込んでる。

稲葉　だって仕方ないでしょ。

宮本　町の住人が事情聴取とか取材とかいう名のもとに疑われてるんですよ。

石井（いきなり現れ）疑われてるんですか？

飯田　ああ、びっくりした！

石井　ごめん。

宮本　時間帯からして外の人間の犯行とは思えません。つまり、この町の住人ってことじゃないですか。

石井　私もそう思うわ。

稲葉　石井さんまで。この町の住人に人殺しがいるわけ？

石井　ないといえます？　隣同士で殺すの殺さないのって怒鳴りあったところもあるのよ。いろんなグループや派閥に分かれていて、いがみあってるところもある。いじめもあるし。結構どろどろしてるんです。

宮本　あれから斉藤さんのおばあさんから電話はなかったの？　例のにおいの。

飯田　ゴミ袋で発見された前々日に。

宮本　あったんですか。この事件、例の超能力がらみじゃないのかな。

飯田　犯人捜しでもするつもり？　せっかくの就職しくじっちゃうよ。

稲葉　再就職決まったの？

石井　そりゃよかった。

宮本　会社へはちゃんと行きます。子供もで

きたんだし。

石井　あら、おめでとう。女の子？　男？

宮本　まだお腹の中（笑）。四か月です。

飯田　宮本さん、初めてよね。

宮本　諦めてたんですが、十二年もたって。

石井　そういうことあるのよ。失業中で奥さんと過ごす時間もたっぷりあったから。

飯田　何、それ、石井さんたら（笑）。

石井　だってそうじゃない。

飯田　そうだけど。

石井　この町、子供が少ないでしょ。公園なんか閑散としてるし。子供の遊ぶ声でうるさいくらいがいいのよ。さびしすぎるわ。私、赤ん坊が泣く声って大好き。もっともっと、元気よく泣けって。

宮本　昨年、この町で生れた赤ん坊は九人です。男が四人、女が五人。双子が一組。

稲葉　七百世帯もあって九人だものねえ。

宮本　子供にとって住みよい町にするためにも、放っておくべきではないです。

飯田　気持ちはわかるけど、危ないわよ。

石井　斉藤さんみたいになるってこと？

宮本　斉藤のおばあさん、何かたいへんなことを知ってしまったんじゃ。

石井　たいへんなことって？

宮本　知られると困ること。秘密を。

石井　誰が困るの？

宮本　わかりません。でも、何かを知った。それで殺されたんです。

稲葉　そういう話は警察でも出たけれど、殺されるほどの秘密って……。

宮本　事件について何か知ってる住人が絶対います。フラワーパークニュースに載せればきっと反応がある。

飯田　（呆れて）宮本さん……。

宮本　きっとあります

15

色違いのジャージを着た五人が並ぶ。腹と背中に白い布がついており、それぞれ『校長』『理科』『国語』『算数』『保健室』と読める。『理科』には小さめの字で『教頭』と添えてある。

理科（六十代男）それでは校長先生のご挨拶。（校長に）お願いします。

校長（七十代男）みなさん、ごきげんよう。本日は絶好の選考日和で何よりです。では、フラワーパーク、ふるさとの歌の選考会を始めたいと思います。選考に関しては、我々退職教員親睦会に一任されておりますので、みなさん、よろしくお願いいたします。

拍手

理科　では早速、選考に入らせていただきます。予備選考を通過したものの中から最優秀作品を選びます。（『国語』に）では予備選考の経過をご説明ください。

国語（六十代男）ご報告いたします。えー、全部で二十五編の応募がございまして、内訳は男性から六編、女性十五編、共作が二編、不明二編でございます。共作の中には家族全員でつくりましたなどという、実にほのぼのとしたものもありまして……。

拍手。

国語　ほのぼのとしていましたが、最終選考には残りませんでした。年齢の内訳は十代三編、二十代ゼロ、三十代四篇、四十代七編、五十代七編、六十代二篇。不明二編。なお、共作は代表者の年齢でございます。

校長　二十代ゼロとは何ですか、情けない。

理科　私もそう思います。実に情けない。嘆かわしい。恥ずかしい。

国語　この二十五編に点数をつけました。誤

字、熟語のまちがい、不適切な形容詞等は減点、読みにくい字も減点、外国語の濫用も減点。その結果、百点満点で最低は12点。

ブーイング。

国語　最高は95点。

拍手。

国語　平均点は65点でありました。

保健室（二十代女）あの……。

国語（うるさそうに）何ですか？

保健室　最高点の人が最優秀作品というわけではないんですね？

国語（舌打ち）わかってないなあ。これは予備選考なんです。あくまでも私の評価……国語の教師の見方での点数ですから、95点の作品が最優秀とは限りません。

保健室　では12点の作品にも可能性が。

国語　ないですよ！　12点が最優秀になったら、予備選考の意味がない。あなた、私のこれまでの経験を、私の国語教師三十八年の人生を否定するんですか！（興奮）

保健室　いえ、そんな……。

国語　予備選考では80点以上の四編を選ばせていただきました。

理科　ありがとうございます。では最終候補の作品を発表し、ご意見をうかがった後、投票したいと思います。一人一票ですが、校長先生は特別に二票ということで……。

校長　いやいや、それはいけない。私もみなさんと同じ一票で結構ですよ。

理科　そうですか……おそれいります。では校長先生も一票ということで。（『保健室』に）あ、君は0．5だから。

保健室　へっ？

理科　0．5票。半分。二分の一。

保健室　私だけ……。

理科　では僭越ながら、私から読ませていた

だきます。（声を張り上げ）最終候補作品１。

すでに立ち寄る　家もなき
ふるさとなれど　なつかしく
まぶた閉じれば　浮かびくる
夏の山道　ツリガネソウ
麦わら帽子に半ズボン
子供の頃のそのままで
友の呼ぶ声　蝉時雨

とうにたずねる　人もなき
ふるさとなれど　なつかしく
耳をすませば　聞こえくる
川のせせらぎ　あげひばり
魚の影も　二つ三つ
子供の頃のそのままで
追いかけている　笹の舟

算数　（六十代男）これはフラワーパークを歌ったのでしょうか？　山や川が歌われているが、近くにはないし。ここは雑木林を造成した町なんですから、ちょっと違う。これはどう考えても田舎の歌です。このあたりには存在しない植物が出てくるし。

国語　多少現実と違ってもですね、まあ、ふるさとのイメージを大事にして。

算数　嘘はいけない。

理科　校長先生はいかがですか？

校長　うーん、いかにも、ふるさとの歌らしいですね。情緒がある。

理科　私もそう思います。これぞふるさとの歌。すばらしいです。

校長　だが平凡ですねえ。

理科　そうです、平凡だ。実につまらん。ありきたりだ。

校長　次の作品を聞きましょう。

保健室　あのー。

理科　（うるさそうに）何ですか？

保健室　あ、いいです。

算数　では、最終候補作品２を読みます。

駅までバスで十五分
池袋まで一時間
丸の内まで九十分
ぐるっと周囲はお茶畑
里芋　人参　ほうれん草
風が強い日　砂が舞う
畑の中のアイランド
フラワーパーク　ニュータウン
フラワーパーク　マイタウン

幼稚園には送迎バス
小学校には徒歩十分
中学校には二十分
わずかに残る雑木林
カラスに痴漢　粗大ゴミ
煙たなびく焼却場
バブルの頃には高物件
フラワーパーク　ニュータウン
フラワーパーク　マイタウン

理科　不動産屋の広告じゃないんだから。
国語　確かに、口ずさみたくなるような歌じゃないですが……。
算数　駅までの時間はいかがなものでしょうか。十五分となってるが、実際は二十分以上かかる。朝は三十分以上かかることも。
国語　そんな細かいこと。
算数　嘘はいけない。
理科　校長先生はいかがですか？
校長　うーん、これはまぎれもなくフラワーパークの歌です。他のどこでもなく。
理科　わたしもそう思います。これぞふるさとの歌。個性的です。
校長　だが潤いがないですねえ。
理科　そうです。乾いてる。カラカラのカサカサだ。
校長　次の作品は、私が読みましょうか。
理科　おそれいります。
保健室　あのー。

理科　（うるさそうに）何ですか？
保健室　いいです。
校長　（気取って）最終候補作品３。

どんなに遠く離れていても
心はいつも帰っていく
ここがわたしのふるさとよ
美しい町　花の町
やさしい人が住んでいる
冬でも笑顔が咲いている
フラワーパーク　ニュータウン
あなたもきっと好きになる
愛のある町　花の町

どんなに長く離れていても
いつかはきっと戻るでしょう
ここがわたしのふるさとよ
美しい町　花の町
みんな家族だ　援けあい
元気に明るく　暮らしてる
フラワーパーク　ニュータウン
あなたもきっと好きになる
愛のある町　花の町

算数　こそばゆくなってきます。
理科　心からそう思っているとしたら、よっぽど能天気な方です。
国語　誇張は多少ありますよ。
算数　嘘はいけない。
国語　嘘って……。
理科　校長先生はいかがですか？
校長　うーん、感じられますね、ふるさとへの愛が。愛情があふれている。
理科　私もそう思います。これぞふるさとの歌。涙が出ます。
校長　だがオーバーですねえ。
理科　そうです。オーバーだ、ひどく大げさだ、誇大妄想だ。
校長　次の作品を聞きましょうか。
理科　（『国語に』）では次、お願いします。

国語　はあ。
理科　どうしたんですか。
国語　これは今までのと、ちょっと趣が。
校長　楽しみです。
理科　私もです。
国語　……では、最終候補作品４。

木曜日は燃やすごみ
薄曇りの仏滅に
なまぬるい風に乗り
羽のついた種が飛んできた
真っ黒な粒がお庭に落ちて
そこからはびこる悪夢（ナイトメア）

守ろう　ふるさとを
戦おう　のっぺらと
刈り払え　根元から
堀りおこせ　根こそぎ
守ろう　ふるさとを
われらのフラワーパーク

月末の不燃ごみ
故障した街灯の
点滅に誘われて
見慣れぬ鳥がやってきた
いびつな巣を椿にかけて
それから始まる悪夢（ナイトメア）

守ろう　ふるさとを
戦おう　のっぺらと
クチバシを　恐れるな
打ち落とせ　卵ごと
守ろう　ふるさとを
われらのフラワーパーク

算数　誰ですか？　作者は。
国語　不明です。
算数　ナイトメアって。
国語　悪夢です。
算数（原稿をのぞき）戦おう、のっぺら……

のっぺらって？
国語　知りませんよ。
理科　花園塾のときに、こんな詩がありませんでしたか？
国語　そうです、そうなんです。あったんです。誰だったか忘れましたが。
算数　じゃあ、若いやつの作品だな。
理科　校長先生はいかがですか？
校長　うーん、私たちの活動の成果ですね。種を撒いた甲斐がありました。
理科　わたしもそう思います。これぞふるさとの歌にふさわしい。感動です。
校長　だが、一体何を言ってるのでしょう。
理科　そうです。奇をてらってるだけだ。意味不明だ。でたらめだ。
校長　だが、気になります。
理科　確かに気にはなります。
保健室　あの……。
理科　何ですか？
保健室　よろしいんでしょうか？
理科　意見があるんでしょ。
保健室　この四つから選ぶんですね。
理科　そういうことです。では……。
国語　あの、実はもう一編。
理科　もう一編？　全部で四編じゃ……。
国語　締め切りは十一月十五日の土曜です。これを見つけたのは十七日の月曜日。日曜日は集会所に誰もいません。土曜日に投げ込まれたものなら問題ないのですが、日曜日なら締め切り後ということになって。
理科　いいじゃないですか、一日くらい。
算数　嘘はいけない。
国語　それで一応、保留に。
理科　応募した人に確かめたらどうです？
国語　これも差出人不明なんです。
理科　（校長に）いかがしましょう？
校長　うーん、微妙ですね。
理科　わたしもそう思います。実に微妙。
校長　だが、どっちでもいいです。
理科　そうです。どっちでもいい。たいした

ことじゃない。それでは読んでください。

『理科』、『保健室』を指さす。

保健室　わたし？
理科　あなた。
保健室　わたし？
理科（大声で）あなたっ！
保健室　で、では、さ、最終候補作品の５を発表させていただきます。ふるさとの塔の（声が上ずる）……すみません、初めから。

ふるさとの塔の上から眺めれば
町は巣箱を並べたよう
屋根で蓋して見えぬはず
たかをくくった虫どもが
右往左往の　あさましさ
ふるさとの塔の上から眺めれば
秘密はすべてお見通し
内緒の話も筒抜けに
糸で繋いだマリオネット
知らぬ間に操られ

ふるさとの塔の上から伝えよう
下界に向けて伝えよう
雨を降らそう　黒い雨
洗濯物は汚れてしまえ
白いお花は黒くなれ
ふるさとの塔の上から与えよう
地上に罰を与えよう
雪を降らそう　赤い雪
犬も子供も震えてる
静かに町は埋まっていく

理科　それは……。
算数　何ですか！
理科　大体、フラワーパークに塔なんて。
算数　そうですよ、塔なんて……。
全員（一斉に）あった！
理科　あれが塔だとすれば、これはフラワー

パークの歌ということになる。

算数　フラワーパークの歌というより、こりゃ塔の歌でしょ。

国語　あれはフラワーパークにあるんだから、フラワーパークにある塔を歌った歌はフラワーパークの歌ということで。

理科　校長先生、いかがですか？

校長　うーん、これも……わかりません。

理科　わたしもそう……わかりません。不可解だ。ちんぷんかんぷん。

校長　だが……。

理科　だが？

校長　やっぱりわかりません。

理科　……もう投票にしましょう。さっさとすませてしまいましょう。みなさん、最優秀作品の番号を書いてください。

それぞれ手元を隠して紙に書く。

理科　では、見せてください。

『算数』は２。『国語』は４。『校長』は３。

理科　（紙を見せ）私は１です。３にしようかと、迷ったんですが……えー、１が一票、２が一票、３が一票、４が一票ですか。

算数　割れましたな。

保健室　あの……。

理科　おお、あなたがまだだ。

保健室　あの、わたし。

理科　あなたは０．５票ですが、それで決まるんですよ。名誉なことですよ。

保健室　あの、それが……。

国語　もったいぶるな！

保健室　すみません！（見せる）

投票用紙には５と書かれている。

保健室　……すみません！

自治会集会所。16

古田　しかし、三本とはなあ。

土橋　かなり遠くから見えますよ。松葉町のバス停あたりからでも。

古田　フラワーパークのシンボルになっちゃったなあ。

土橋　あっという間に立ちましたね。

飯田　夜も工事してたようです。

古田　夜も？

飯田　騒音を出すようなことはなかったみたいですが、チラチラ、コソコソ。

古田　なんだい、そりゃ。

飯田　木村のババアが……懐中電灯のような明かりが見えたらしいです。話し声も。

土橋　いやねえ、気味が悪い。

宮本、入ってくる。土橋、かけよる。

土橋　ふるさとの歌なんだけど、テーチャーズクラブが最終候補作品を持ってきて、あとはそちらで決めてくださいって。

宮本　自分たちで決めるつもりじゃなかったんですか？

土橋　まとまらなかったみたい。それで、その最終候補の中にね……。

岩村、入ってくる。

岩村　おお、宮本さん。

宮本　そっちはどうです？

岩村　電話が5件、メモを入れてったのが3件。みんな匿名希望だが。

宮本　僕のところへは電話が2件、メモが4件、メールが1件。

飯田　集会所へはファックスが2件ですね。

岩村　副会長のところは？

古田　電話が１件。それも脅迫めいたのが。

土橋　脅迫ですか？

古田　長生きしたかったら、余計なことをするなって。

宮本　うちへも来ました。やはり何かあるんです。それから、みんなお互いに無関心だと思っていたんですが、そうでもないんですね。誰がいつ何をしてたなんてこと、結構知ってるんですよ。家の中から外を見ているんです、耳をそばだてている。

古田　うちの家内がな、変なこと言うんだ。ほら、斉藤さんのばあさんの。

宮本　超能力。

古田　宮本さんがいつか、仮にうちの家内に同じような能力があったらとかいったろ。

宮本　あったんですか！

古田　同じかどうかは知らんが、嫁のいうには、家内がしきりにいやなにおいがするっていってたらしい。

宮本　そ、それで、どっちの方角からっていってたんですか！

古田　ショッピングセンターの方だと。

宮本（地図をなぞりながら）副会長の家からショッピングセンターということは……ここだ！　斉藤のおばあさんの言ってたのはこっちだから。交差するのはこのあたり。

岩村　34ブロックか。

宮本　三本の塔の最初のやつがある。

岩村　俺の得た情報によるとな、最近、やたらとゴミ袋があさられていたところあったらしい。カラスじゃないぞ、人間の手で。

土橋　誰があさるの？

飯田　そんなことをするのは、この町に一人。他にいないわ。

土橋　木村の……。

飯田　ババア。

岩村　その場所は（地図上をさし）ここと、ここと、ここだ。

古田　どれも塔のそばじゃないか。

宮本　情報収集していたんでしょう。共通することは何か。

古田　塔が立っている。

宮本　それだけでしょうか。いくら詮索好きとはいえ、木村のババアの行動は尋常じゃない。何かとんでもないことを……。

飯田　あの、封筒の字が誰かわかったんです。

岩村　例の訪問販売の？　関係あるのかい？

飯田　行方不明の営業マンの手帳が会社に送られてきたんですって。私、住民アンケートで確かめたんです。くせのある字だったからすぐわかった。

土橋　それ、まさか？

飯田　間違いないです。木村のババア。

宮本　つながってきた。木村のババアは営業マンの手帳をゴミ袋から見つけたんだ。

古田　わからん、俺には。斉藤のばあさんの事件と行方不明の営業マンと木村のババア、それとあの三本の塔とはどうつながるんだい？

宮本　訪問販売の営業マンがこの町で次々に失踪しました。そして斉藤のおばあさんが、いやなにおいを感知しています。それは。

土橋　死んだ人のにおいってことでしょ。つまり、営業マンたちはこの町で死んだ。

岩村　殺されたんだ。

宮本　それに関する秘密を木村のババアが知ったのではないか。

飯田　回覧板を見て、木村のババアは手帳の主がこの町で消えた営業マンと知ったのよ。

宮本　手帳以外にも何か見つけたのではないでしょうか。血の付いた衣服とか。

飯田　木村のババア、こわくなったんじゃない？　それで手帳を送り返した。

岩村　おい、ババア、つれてこいよ。知っていること全部吐かせてやる。

土橋　無理ですよ、そんなこと。

古田　待ってくれ。この町に営業マンを殺し

たやつが、それも三人も殺したやつがいるってことか？

宮本　そういう可能性があります。

古田　いくら訪問販売には悪いのがいるからって、殺すっていうのは。

宮本　彼らはほんとうに訪問販売の営業マンだったんでしょうか。

岩村　違うのかい？

宮本　訪問販売を装って、何か調べていたんじゃないでしょうか。

岩村　そ、それってもしかして。

古田　その筋の……。

宮本　渡邉さん。あの人、さえないオヤジのように見えますが、只者じゃない気がする。

古田　何を調べてたんだい？

飯田　ここの人たちのことを調べてたのよ。

古田　塔をつくった連中か。

岩村　木村のババアがこいつらのゴミを調べていた理由もわかるな。

土橋　ここの人たち、何をしたの。何をしようっていうの。大体、どういう人たち？

飯田　三つの場所にはそれぞれ四世帯、計十二世帯があるけど、すべてこの一年の間に越してきました。この十二世帯はフラワーベルトに参加していません。

宮本　そして全員、苗字に山の字がついてる。

飯田　それと、この世帯すべて自治会費が口座落しではないんです。

岩村　もしかして偽名なんじゃねえか？

宮本　斉藤のおばあさんがこれまでにおいを感じた方角の延長上に、この三つの塔があるんです。

岩村　営業マン、いやその筋の人間があいつらにやられたんだ。木村のババアも何かかぎつけたんだ。しかし、かぎまわっていた木村のババアでなく、なぜ斉藤のばあさんがやられちまったんだ。

宮本　木村のババアより危険と判断されたということです。斉藤のおばあさんはおそらく我慢できなくなって、においの元を確か

めに出かけたんじゃないでしょうか。
古田　足の悪い人がそこまで思いつめたのか。
飯田　私達にも責任あります。もっときちんと聞いてあげればよかった。
宮本　では営業マンの死体はどこに消えたのでしょう。それと、なぜ斉藤のおばあさんの死体の方はすぐ見つかるようなゴミ袋に入れたんでしょう。

稲葉が入ってくる。

稲葉　まいったわよ……どうしたの？
土橋　えらいことになってるの。
稲葉　こっちも清掃局から連絡があって。
古田　どうした？
稲葉　うちの町のゴミ袋から、カラスの死骸が見つかったの。それもたくさん。
宮本　警告じゃないでしょうか。
岩村　警告？
宮本　斉藤のおばあさんのことも、カラスも。
稲葉　何のこと？
岩村　塔の連中だ。あのうさんくさい塔をつくった連中が、何か企んでやがるんだ。
稲葉　カラスを殺したのは彼らなの？
岩村　斉藤のばあさんも、営業マンもだ。
稲葉　どうして、どうしてなの？
宮本　わかりません。でもこれから徐々に。
土橋　あの、ふるさとの歌なんだけど。
岩村　今、それどころじゃないだろ！
土橋　聞いて！　最終選考に残った歌の中にこれがあったの。いい、読むわよ。

ふるさとの塔の上から眺めれば
町は巣箱を並べたよう
屋根で蓋して見えぬはず
たかをくくった虫どもが
右往左往の　あさましさ
ふるさとの塔の上から眺めれば
秘密はすべてお見通し
内緒の話も筒抜けに

糸で繋いだマリオネット
知らぬ間に操られ

稲葉　何、それ！
飯田　あの人たちが応募したの？
土橋　名前はないの。
宮本（原稿を見て）この歌は、これからこの町で起こることの予言。いや、挑戦状かな。
岩村　あいつら、何者なんだ。
宮本　わかりません。みんな知らなかった。気にもしなかった。彼らのことをそんなにおかしいとも思わなかった。いや、彼らが思わせなかった。
稲葉　何なの、彼らは何なの？
宮本　歌の二番はこうです。

ふるさとの塔の上から伝えよう
下界に向けて伝えよう
雨を降らそう　黒い雨
洗濯物は汚れてしまえ
白いお花は黒くなれ
ふるさとの塔の上から与えよう
地上に罰を与えよう
雪を降らそう　赤い雪
犬も子供も震えてる
静かに町は埋まっていく

岩村　冗談じゃねえぞ。何だ、罰ってのは！
古田　……わかった。
岩村　何が？
古田　あの穴だ。塔を立てるときに掘った穴。やけに深く掘ると不思議だったが、あの中に営業マンの死体は隠されているんだ。
宮本　そうか！　そうですよ、きっと。でも手遅れです。あんなものを建てられては掘り返すことはできない。迂闊でした……この町には、うるさい人も意地悪な人も我儘な人もいます。でも、あの塔を立てた人たちは、おそらくそういう範疇じゃない。
稲葉　そういう範疇じゃないって。

宮本　危険なにおいがします、すごく。

岩村　追い出しちまえ。住民運動だ。

宮本　無理ですよ。でも、戦わねばならないときがすぐにくるかも。

岩村　防災チームの相手は、地震だけじゃないようだな。

宮本　彼らはすでにこの町の空を占拠しました。制空権を得た。あの塔の上から、この町のどこでも覗くことができます。気になるところへ集音マイクを向けることも可能です。あのアンテナは携帯や親子電話の電波を拾うためのものかもしれません。

土橋　冗談じゃないわ。私、引っ越すわ。

宮本　引っ越したらそこへ仲間が入り込むのでしょう。最近やたらと増えた隣家同士のいがみあいも、もしかすると……。

古田　何が目的だ。この町を乗っ取ろうというか。

飯田　ねえ、あの人たちにも自治会の役員の番が回ってくるわよ。幹部にだってなるかもしれない。そうしたら何をするか……。

石井、入ってくる。

石井　（息をはずませ）ごめんなさい。娘がね、アメリカから帰ってきたものだから。ケンタッキーの。孫と一緒に。フレディっていうんだけど、日本語しゃべれるのよ。娘がちゃんと教えてたの。漢字だって読めるのよ。そうそう、駅からタクシーでくるときね。フレディがね、「ばあちゃん、山、山」っていうの。何のことかと思ったら、交差点のあたりから、あの塔が三本とも見えるのよ。真ん中に一番高いのがあって両脇に二本。それがちょうど、山という字に……みんな、どうかした？

17

飯田（客席に向かって）　こんにちは、寒くなりましたね。今年は暖冬だと思ったのに。挨拶は、地域社会を結ぶ大切なコミュニケーション。お互いを知るはじめの一歩です……私は、フラワーパーク自治会の事務員です。五年前から。事務員はこの町の住人がやることになっています。一応９時から３時ですが、時間通りというわけには……うちにはひきこもりの息子がいます。小学四年生からもう八年。同級生は高校を卒業するのに、彼はひきこもりを卒業する気はないようです。朝、私と夫と小学五年生の娘と朝食をとります。彼は寝ています。二人が出かけ、私は彼の朝食を置いて集会所に出かけます。お昼に帰ってくると、朝食はかたづいています。彼と顔を合わせるのは、夕食を部屋まで持っていくときだけ。いつもテレビゲームをやっていて、声をかけても返事もしません……殴り合いの喧嘩もしました。いろんなところに相談にもいきました。でももう諦めたんです。いつか憑きものでも落ちるように……娘は彼のことを家に住みついてる幽霊だなんていいます。お兄ちゃんに可愛がってもらったことも、いじめられたこともないんです。うんと勉強していい大学に受かって、早く家を出たいって……それがこのあいだのことです。夕食を持っていくと、テレビの画面を見たままこういいました。「ママ、仲間は集まったの？」久しぶりでした、声を聞くのは。「仲間って？」「仲間だよ、闇の力と戦う伝説の勇士たちさ」「何のこと？」「ママたち塔のやつらと戦うんだろ」「おまえ、何を知ってるの？」「みんな知ってるさ、この町のことは全部。外へ出なくたってわかるんだよ。ううん、外へ出ないから余計わかるんだ。このゲームの攻略のポイントを教えてあげる。それはね、歌」「歌？」「魔法の歌、呪文の歌さ。その歌がわかれば、それで塔は崩れる。でも敵に

も対抗呪文がある。なかなか手ごわい相手だよ」彼はそれだけいうと、口を閉ざしました。

飯田の後方に防災チームのジャンパーを着た岩村、古田、宮本、稲葉、石井、土橋が並ぶ。岩村はチェーンソー、宮本はバール、古田は拡声器を持つ。石井が飯田にジャンパーを渡す。

宮本　僕の妻は鹿児島県人です。控え目で芯の強い薩摩おごじょ。正月の帰省はたいへんです。でも今年は帰れないかもしれない。

岩村　俺は花が好きだ。花の好きな連中のいる町も。なんだったら、気にくわない薔薇組の連中と手を組んだっていいんだ。

古田　あの時代、思えば私たちは、彼らの町に突然住みつき、支配していたのです。

石井　お太鼓息子が帰ってきます。娘も孫を見せにきました。私はもう空っぽの鍋じゃないんです。

稲葉　町は海で、家は船です。ちっぽけな船。沈んでしまうこともあります。でも私は絶対守る。たとえ、どんな嵐がきても。

土橋　タロットカード占いでは、塔は不吉な出来事をあらわします。

突然、フラワーパークの地図が剥がれ落ちる。その下から巨大な〝塔〟のタロットカードが現れる。

ティーチャーズクラブの『校長』『理科』『算数』『国語』の四人が合流。

土橋が合唱団の指揮者よろしく指揮を始める。最終候補作品４を全員で歌う。

木曜日は燃やすごみ
薄曇りの仏滅に
なまぬるい風に乗り
羽のついた種が飛んできた
真っ黒な粒がお庭に落ちて

そこからはびこる悪夢（ナイトメア）
守ろう　ふるさとを
戦おう　のっぺらと
刈り払え　根元から
堀りおこせ　根こそぎ
守ろう　ふるさとを
われらのフラワーパーク

古田（拡声器で）進軍！　塔に向かって！

月末の不燃ごみ
故障した街灯の
点滅に誘われて
見慣れぬ鳥がやってきた
いびつな巣を椿にかけて
それから始まる悪夢（ナイトメア）

守ろう　ふるさとを
戦おう　のっぺらと
クチバシを　恐れるな
打ち落とせ　卵ごと
守ろう　ふるさとを
われらのフラワーパーク

歌いながら行進。
全員、退場。歌も止む。
カラスの鳴き声。
中央に黒いゴミ袋。しばらくごそごそした後、中から『保健室』が出てくる。

保健室　ふるさとの塔の上から……ふるさとの塔の上から……ふるさとの。

塔の歌が天井から聞こえる。不吉で暗い調べ。うっとり聞く『保健室』。

ふるさとの塔の上から伝えよう
下界に向けて伝えよう
雨を降らそう　黒い雨

洗濯物は汚れてしまえ
白いお花は黒くなれ
ふるさとの塔の上から与えよう
地上に罰を与えよう
雪を降らそう　赤い雪
犬も子供も震えてる
静かに町は埋まっていく

保健室（見上げて）……あ（空から落ちてきたものを受けとるしぐさ）。

了